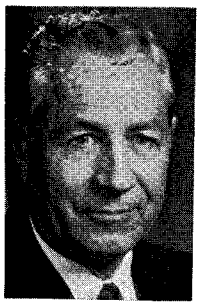
聖徒の道 1971年5月20日発行（毎月1回20日発行）第15巻 第5号
昭和42年12月18日第三種郵便物認可

聖徒の道 1971 5



心の糧

大祝福師
エルドレッド・G・スミス

キリストが地上に来られ，サタンが縛られる福千年の間に，もし我々が生きることを許されるとすれば，主に仕え，主の戒めを守ることは容易であろうと我々の多くは考えている。

ヨハネは次のように書いている。「またわたしが見ていると，ひとりの御使が，底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手に持って，天から降りてきた。彼は，悪魔でありサタンである龍，すなわち，かの年を経たへびを捕えて千年の間つなぎおき，そして，底知れぬ所に投げ込み，入口を閉じてその上に封印し，千年の期間が終わるまで，諸国民を惑わすことがないようにしておいた。……」（黙示 20：1—3）

ルシフェル，サタンと呼ばれる悪魔が縛られる故に，すばらしい輝かしい状態となる千年間については他の多くの聖句で述べられている。

聖典はサタンが「鎖で縛られ」また「底知れぬ所へ投げ込まれる」と言っている。

私にとってはこれらは象徴的な言葉である。私はサタンを拘束する金属の鎖や穴を必ずしも心に描くことはできない。サタンを縛り，サタンを無力にさせる私の知っている唯一の力は，義なる生活である。

天上で始まった戦いはまだ終わっていない。すべての人がサタンに抗する力を伸ばして初めて，その戦いは終わるであろう。イエス・キリストでさえも，荒野で試みられた時サタンを縛らなければならなかった。サタンはイエスに何の力も持たなかったのは，イエスがサタンの誘惑に抗したからである。その次第は次のように記されている，「悪魔は……一時イエスを離れた。」（ルカ 4：13）

あなたが誘惑に立ち向かって，それがもはや誘惑でなくなると，サタンはあなたを支配する力を失ってしまう。そしてあなたがサタンに従わない限り，サタンは縛られることになる。

たとえば，もしあなたが什分の一を払ってそれがなんの重荷とも試みとも感じなくなれば，その程度に従ってサタンは縛られてしまう。知恵の言葉を守ったり，純潔の律法や他の福音の律法に従って生活することにおいても同様のことが言える。サタンはその分野であなたに対する力を失うのである。

今あなたは徐々にサタンを縛ることができるのであって，福千年まで待つ必要はない。

——もくじ——

予言者のことば
「完全なるわが福音……宣べられんがため…」
大管長ジョセフ・フィールデング・スミス… 117
神に会う用意をする時……第一副管長ハロルド・B・リー… 120
「偽善者よ」あなたがたはわざわいである……
第二副管長N・エルドン・タナー… 124
いなごの食べた年……スペンサー・W・キンボール… 128
大きいかな小さいかな……ルツ・H・ランドグレン… 131
「あなたの言葉を信じます」…… 133
管理監督のページ
世にありながら世のものとならず……ジョン・H・バンデンバーク監督… 135
家族をより強く……エズラ・タフト・ベンソン長老… 136
我々を頼りとできるだろうか……ローレン・C・ダン長老… 140
家族と棚……ボイド・K・パッカー長老… 142
感謝の心をもって……大管長ジョセフ・フィールディング・スミス… 145
伝道部だより…… 146
私にきのうを与えて下さい……リチャード・レ・エバンズ…裏表紙

5月のこよみ

1日	1846年	ノーブー神殿オルソン・ハイドにより献堂さる。
3日	1834年	末日聖徒イエス・キリスト教会と名付けらる。
6日	1833年	聖徒ら主のために一つの宮居を建てよと命ぜらる。
9日	母の日	
15日	1829年	バプテスマのヨハネによりアロン神権回復さる。
17日	1884年	ローガン神殿ジョン・テイラー大管長により献堂さる。
21日	1888年	マンタイ神殿ロレンゾ・スノー大管長により献堂さる。

今月の表紙

発展する教会。これが今月の表紙が表わしている意味である。新しい教会のオフィスビルの進行ぶりが古いソルトレーク神殿と対比されている。教会員はいずれにおいても常に最上のものを求め続けてきた。1970年10月の教会総大会の折に幾枚かの写真が撮られた。それらは築き上げ，成長し，意義ある事柄をなしている発展途上にある教会の会員たちをよく表わすものである。

「完全なるわが福音……宣べられんがため」

大管長　ジョセフ・フィールディング・スミス

1970年10月2日（金曜日）の総大会における説教

私の愛する兄弟姉妹，我々は末日聖徒イエス・キリスト教会第140回半期総大会を始めるにあたり，あなたがたに歓迎の意を表わしたいと思う。

我々は，みたまと真理のうちに再び共に集まって主を礼拝できるこの機会を主に感謝する次第である。この大会の各会の上に主の「みたま」が豊かに注がれんことを祈ってやまない。

またテレビ，ラジオ放送を通じて我々と共に参加している信仰ある人々，善良なる天父の他の子供たちを心から歓迎したい。

私はあなたがたの信仰と祈りの力に支えられて話したいと願っている。私が教義にも，証にも，感謝にも私の声を挙げることができるのは光栄のいたりである。

私は過去60年以上，各地の教会のステーキ部，伝道部にあって福音を宣べ伝えてきた。また聖徒たちに戒めを守るよう訴え，この神権時代に啓示により我々にもたらされた救いの真理を受け入れるように，天父の他の子供たちにもすすめてきた。

私は生涯を通じて聖典を調べ，そのまことの意味を理解するために主の「みたま」の導きを求めてきた。

主は私を助けたまい，知識と救いの真理を教える機会をお恵み下さった。

私は福音の諸原則に思いをめぐらしながら，長年の間私とすべての兄弟たちが教えてきた教えの中に，一致のあることを知り，強く心を打たれている。福音の真理は永久に変わることがなく，神ご自身のように，真理はきのうもきょうも，永遠に同じである。私は過去に教え，書いてきたことを同じ状況で再び教え，書き続けるであろう。

私自身について言うことは，教会のすべての兄弟，すべての長老にとっても同じことである。「汝ら互いにこの王国の教義を教ゆべし」（教義と聖約88：77）と言われるように，我々はみな福音を説き，キリストの儀式を執行し，警告の声を挙げるために召されているのである。

この神権時代の初期に，主は導きと教えを施すために召された人々について次のように言われた。「あらゆる人々は主なる神すなわち世の救い主の名によりて語らんため……完全なる福音，弱き者たち単純なる者たちによりて世界のいやはてまでも宣べられ，また王と統治者との前に宣べられんがためなり。」（教義と聖約1：20，23）

福音を「宣べんために出で行く」人々，教会のすべての「長老，祭司および教師たち」に対して，「『みたま』に導かるるまま」「聖書と完全なる福音を載せたるモルモン経とに誌されたるわが福音の原則を教うべし」と主は言われた。（教義と聖約42：11—13）

主の代理人である我々は，世の哲学やこの科学の時代の仮説を教えるために召され，権威を与えられているのではない。我々の使命は簡潔明瞭な救いの教義を，啓示され聖典にしるされたままに提示することに他ならないのである。

主は，「みたま」に導かれるまま，聖典にある福音の諸原則を教えるよう我々に指示されてから，教会員全員にとって大切で偉大な宣言をされた。すなわち「この『みたま』は，信仰の祈りによりて汝らに与えらる。而して汝らもし『みたま』を受けざる時は教うべからず」。(教義と聖約42：14)

これらの啓示の精神に従い，あらゆる人々へのあふるる愛をもって，私は，教会の会員たちが福音を学び実践し，力とエネルギーと財産を投じて，世に福音を宣べ伝えるよう提案したい。

我々は主から一つの使命を与えられた。主は我々に神聖な委任をされた。主は我々に疲れを知らぬ勤勉さをもって出で行き，ジョセフ・スミスに啓示された救いの真理を主の他の子供たちに伝えよと命じられたのである。

永遠の父なる神は救いの計画の立案者であり，この計画はイエス・キリストの福音である。すなわち「キリストの贖罪により，すべての人類は，福音のおきてと儀式とを守ることによりて救われ得る」のである。(信仰箇条第3条)

どの時代にも福音が地上にある限り，それは主の予言者に啓示されねばならない。また予言者は為政者のごとく立つために召され，彼とそのはらからのために救いの諸儀式を執行しなければならない。

ジョセフ・スミスは主が救いの真理を回復するためにこの時代に召された予言者であり，これら救いの真理を説き行なう鍵と力とを受けた人物である。

主はジョセフに「今の代の人々には，汝によりてわが言を与うべし」(教義と聖約5：10)と言われた。

また主はジョセフ・スミスにより回復された福音に関して言われた。「王国のこの福音は，すべての国民に証をなさんため全世界に宣べ伝えられん。しかして後に，終りすなわち悪しき者の滅亡は至るべし。」(ジョセフ・スミス1：31)

このように我々はイエス・キリストのみ名とジョセフ・スミスの名につながっている。キリストは主であり，あがないの犠牲をなし遂げられたお方，よみがえりであり，命である。主を通してすべての人は不死不滅になり，主の律法を信じて従う人は永遠の生命をも受けるのである。

ジョセフを通して啓示されたこれらの真理は，主の再臨に先だってすべての国民に出で行くものであるので，モロナイがジョセフ・スミスに次のように言ったことを知っても驚くにはあたらない。「彼の名は，あらゆる国民，あらゆる血族あらゆる国語の民の中に善くも悪しくも覚えられ，あらゆる人々の中に善くも悪しくも語らるべし。」(ジョセフ・スミス2：33)

そしてまた主が予言者に次のごとく言われたのを知っていささかも驚くにはあたらない。「地のいや果にある者すら汝の名を訊ね，愚かなる者ども汝を嘲弄し，地獄は汝に向いて怒りを起さん。然るに心の潔き者，賢き者，貴き者，徳ある者たちは汝の手の下よりいさめと権威と祝福とを常に求めん。」(教義と聖約122：1－2)

現在，地のすみずみからジョセフ・スミスの名がたずねられ始め，多くの国々の民が彼により回復された福音を享受している。

この神権時代の初めから，ジョセフ・スミスにあらわされたままに，イエス・キリストについての証は，合衆国，カナダ，英国，ヨーロッパ各地，太平洋の島々に宣べ伝えられてきた。

近年，メキシコや中南米の国々においても，福音はほとんど信じがたいほどに広まってきている。またアジアでは，いまだかつてなかった方法で福音のおとずれが広まっている。教会は日本，韓国，台湾，香港に確立され，我々はタイ，シンガポール，インドネシアにおいても始めようとしている。

まだ真理のおとずれを聞いていない他の国々においても，主のみこころにより門戸が開放される日がやがて来ることであろう。そこでイスラエルの長老たちは出で行き，それらの国々の正直な人々にキリストと福音について，ジョセフ・スミスによりこの時代にもたらされたままに語るであろう。

今や実に我々が宣教師を送りきれない程，数多くの国々の門が開かれているのである。我々はすべての資格ある末日聖徒の若人が，主の使いとして出で行き，地上の国民に真理の証人として立つ日を目にしたいものである。

現在ではこの宣教師群の中に多数の安定した年配の夫妻の方々も含まれている。資格があり，健康と条件が許す人々は生活を整えて，その可能性を監督に知らせ，福音を宣べ伝える召しに応じられるよう我々は望んでやまない。

またこの業につく若い姉妹たちも大勢いる。しかし兄弟たちに課せられるのと同じ責任ではない。我々は，若い姉妹たちが主の神殿でふさわしい結婚をすることに大きな関心を抱くものである。

会員たちは宣教師を支えるために，財政的援助をし，福音を広めるために財産を寄付されるよう我々はすすめる。

偉大な宣教師の働きに協力されている方々に心からの賞賛

を送りたい。

ジョセフ・スミスは，「いろいろ語られたあげく，最も偉大で大切な務めは福音を宣べ伝えることである。」（予言者ジョセフ・スミスの教え　英文P.113）と言った。

いたる所にいる天父の子供たちが，地のもろもろの国民に宣べ伝えている宣教師の言葉に注意を向けられるようすすめる次第である。

彼らが自分たちの神として主を受け入れ，「みたま」と真理とイエス・キリストのみ名において主を礼拝されることを願ってやまない。

すべての人々がキリストを信じ，心からキリストを天父の独り子，神の御子として受け入れ，主の聖なるみ名を信じ，主の戒めを守り，主のみ名により，遣わされた人々を受け入れることによって，主に対する愛を表わされんことをすすめる。

もし人々がキリストを信じ，罪を悔い改め，戒めを守ることをバプテスマの水に入って誓約し，この権能に召され聖任された人の按手により聖霊を受け，このようにして戒めを守るならば，この世においても来たるべき永遠の世においても平安を得るにちがいない。

さて，世を捨て教会に加入するすべての人々，全教会員に私が申しあげたいことは，教会員であることが必ずしも福音の完全な祝福を受け，日の栄の王国に入る約束を受けることではないということである。バプテスマ後も我々は戒めを守り，最後まで耐え忍ばねばならない。

教会員についてニーファイは言った。「あなたたちはこの真直ぐで狭い道に入ったら，それで万事終りであるか。」そして彼は答えた。「ごらんそうではない。あなたたちがもしもキリストの言葉によってキリストを確く信仰し，人を救う大きな能力のあるキリストの功徳に全く頼らなかったなら，あなたたちはここまで進んでくることさえできなかったのである。それであるから，あなたたちはこれからもキリストを確く信じて疑わず，完全な希望の光を抱き，神とすべての人とを愛して強く進まなければならない。それであるから，この後もたえずキリストの言葉をよく味わいながら強く進み，終りまで堪え忍ぶならば『永遠の生命を受ける』かくの如く天の御父が言いたもうた。」（Ⅱニーファイ31：19—20）

世の中に福音を受け入れその栄ある祝福を受け継ぐ者となる以上に大切なことはない。

バプテスマの後に戒めを守ることは教会員にとって最も大切な勧告である。主は我々に悔い改めと主の律法への忠実さを条件として救いを与えられる。

世の人々が悔い改めて真理を信じ，キリストの光を輝かせあらゆる真理の原則を守るよう願っている。なぜならこれらの原則は，この時代に啓示された光と知識をさらに加えているからである。私は，世の人々が末日聖徒イエス・キリスト教会に加わって，福音の祝福の数々を受けられるよう心から願っている。

私は教会員が義しい業をなし，戒めを守り，「みたま」を求め，主を愛し，まず神の王国の事柄を生活に取り入れ，主のみ前におそれかしこんで救いを得られんことを切に願う次第である。

さて教会の内外すべての方々に，私はこの大いなる末日のみ業が真実で，神聖であると証する。

神は生きたまい，イエス・キリストはその御子である。天父と御子が，この時満ちたる神権時代を先導するために1820年の春，ジョセフ・スミスに現われたもうたことは確かである。

ジョセフ・スミスは神の賜と能力とにより，モルモン経を翻訳した。また「ユダヤ人と異邦人とにイエスは永遠の神なるキリストにましまして，万国の民に現われたもうことを確信させるためである」（モルモン経の扉）というのは確かである。

末日聖徒イエス・キリスト教会は地上の神の王国であり，現在設置され指揮されているごとく，主の承認を受けて，主が示したもう道を進んでいるのである。

これはまさしく主の教会であり，主が導いておられることをすべての人に知らせよう。このような神の組織の会員であることは何とすばらしいことではないか。

神のみ業が広がり，すべての国の心の直き人々が教会に導かれるよう心から祈っている。

私は宣教師と新会員に神の御加護があって成功をおさめ，また父なる神が愛とあわれみとをもって彼らを見たまい，心に義しい望みを与えられんことを願ってやまない。

この危険な時代，歴史上かつてないほどに福音の標準が必要とされる時代に，教会と世の若人にみ守りがあらんことを。

私は，主がこの世の上に，教会の上に我々一人一人の上に豊かに注ぎたもうた祝福のすべてに心から感謝し奉る。主イエス・キリストのみ名により，アーメン。

1970年10月4日，日曜日朝の説教

神に会う用意をする時

第一副管長および十二使徒会会長
ハロルド・B・リー

世界中で起きている信じがたいことを目にし，耳にして驚いている人が少なくない。それらは，政治的な策謀，いたる所に見られる戦争や不和，両親の欲求不満，神聖な場としての家庭を崩壊する恐れのある社会問題との戦い，子供や若人が信仰や道徳面でチャレンジを受けた時に起こす欲求不満などである。

喜んで耳を傾け，従う場合にのみ，あなたと家族は主の道にある究極の平安へと導かれる。

この乱れた世の中には，地上の人間が放つ苦悩の叫びがある。そしてまた苦しい問題を解決し，人類を脅かすすべてのものからこの苦悩を取り除く道を欲する強い気持がある。

昔の予言者たちの教えによく通じている者にとっては，現在私たちのまわりにあるすべてのものがたとえ混乱しているように見えても，その意味を疑うことはほとんどない筈である。

予言は，裏返すと歴史と言ってよいであろう。私たちはすぐ目の前で，霊感を受けた過去の予言者たちによる予言が成就するのを目にしている。この神権時代がまさに始まった時に，主は啓示を通してはっきりと私たちに，地より平和の取り去られ，悪魔自らの領土を支配する時は今や近きにありと言われた。（教義と聖約1：35参照）近代の予言者たちは，戦いや戦いのうわさについて聞くであろうとも予言している。「全世界は揺れ動き，人々は怖れおののきて言わん。キリストは世の終末までこの世に来ることを延ばされたり，と。人々の愛は冷やかになり，不法は満つべし。」（教義と聖約45：26—27）

主は十字架にかかられる前に，弟子たちから再臨に先がけてあらわれるしるしについて問われてこう答えておられる。「その時，ユダヤ人とエルサレムに住む者に大いなるなやみあらん。……もしその日少くせられずば，かれらは一人だに救わるることなからん。されど選民のため，誓約に従いてその日少くせらるべし。民は民に国は国に逆らいて立ち，また飢饉，疫病，地震ところどころにあらん。」（霊感訳聖書マタイ24：18—20，30，およびジョセフ・スミスの著1：18—20，29参照）

主は確かに，「人をその父と，娘をその母と，嫁をそのしゅうとめと仲たがいさせ……，そして家の者が，その人の敵となる」時のことを語ったのである。（マタイ10：35—36）

これらのことから次のような質問が出ると思われる。苦悩の中にあって大いなる不安を持つ者は，だれに対して答えを求め，吹き荒れる「あらしをさける避け所」[1]を求めればよいのだろうか。

全能なる神は，御子であられる救い主を通して道を示し，すべての人に安全への確かな導きを与えられた。そして主がその聖徒らを支配し，その真中にありてこれを統治し，この世に下る審判のために天より降り来ると言われた。（教義と聖約1：36参照）

主はすべての人に向かって言われた。「目をさましていなさい。いつの

日にあなたがたの主がこられるのか，あなたがたには，わからないからである。だから，あなたがたも用意をしていなさい。思いがけない時に人の子が来るからである。」（マタイ 24：42，44）

またこう勧告しておられる。わが弟子たちは，聖地に立ちて動くことなかるべし。されど悪しき人々の中には，声を挙げて神をのろい死ぬる者たちあらん。」（教義と聖約45：32）

以上参照した主の約束を心に留めて私はしばしの間，すばらしい計画について簡単に述べたいと思う。それは，この世から究極の運命すなわち生命を与えて下さった神のもとへ立ち返るまでの行程において，すべての人の救いが従順にかかっているという計画である。そして「その聖徒らを支配し，その真中にありてこれを統治」するという約束を成就するために主が使いたもうのは，まさしくこの方法である。

この福音の神権時代の初めにおいてこの計画には名前がつけられ，私たちの教会の前に崇高な目的がはっきりと打ち出されたのである。

1世紀以上も前に主はこう言われた。

「またかくの如く，わが永遠の誓約を世に遣りて世の光となし，またわが民とこの光を求め来る異邦人とのために一つの旗となしわが前に道を備うるためわが前に立つ一人の使となしたり。」（教義と聖約45：9）

それ故この計画は，1人以上の人間が関わる契約を意味する誓約であった。主に選ばれた者とこの計画から恵みを受ける世のすべての者にとっては標準であり，その目的は万人の必要を満たし，世を主の再臨に備えさせることであった。

前世においてこの計画を発表した場に集まったのは，天父の霊の子供たち全員である。古代の予言者アブラハムやエレミヤは旧約聖書の中で，神エローヒムがその場におられたことを，そしてまた長子エホバ，アブラハム，エレミヤ，その他多くの偉人たちがいたことを明らかに記している。

地球が形造られるに先立って，すべての組織された英智たちは霊としてこの場にいたのである。その中にはこの永遠の計画を遂行する上で統治者や指導者となるにふさわしい行ないを前世においてなした偉大な霊やすぐれた霊たちがあった。

使徒パウロはコリント人に宛てた手紙の中で次のように教えている。「多くの神，多くの主があるようではあるがわたしたちには，父なる唯一の神のみがいますのである。万物はこの神から出て，わたしたちもこの神に帰する。また唯一の主イエス・キリストのみがいますのである。万物はこの主によりわたしたちもこの主によっている。」

（Ⅰコリント8：5—6）

特に，父なる神についた「から」という言葉と，主イエス・キリストについた「によって」という言葉に注目していただきたい。この聖句ではそれぞれの方の役割がはっきりと示されている。主は父なる神の命を守って，万人の救いの計画を完全に遂行されるのである。（アブラハム4章参照）

神が管理されるという計画によってこの原則を理解すると，古代の予言者たちに与えられた啓示に簡単に記されているように，神々の評議会の様子が少しうかがえる。

父なる神の命令のもとにエホバが指示を下し，地とそれにつけるすべてのものが組織され形造られた。彼ら（神々）は地に「命じ」，「見守り」，「備え」[2]たもうた。そして，あらゆる種類の生き物，あらゆるもの，また人間を地にもたらすよう「神々同志議り」，救いの計画を遂行すべく地を備えたもうた。この青写真にもたとえられる救いの計画により，「神の栄光」すなわちすべての「人に不死不滅と永遠の生命とをもたらす」[3]という神聖な目的に必要なすべての面において，神の子供たちは導きを受け，訓練されるのである。永遠の生命とは，命じられたすべてのことをなすことにより，神とキリストの住まう最高の栄で永遠に続く生命を受けることである。（アブラハム3：25参照）

この救いの計画は次のはっきりとした3つの原則を含む。

第1に，すべての人は神の律法に従順であることによる「自由と永遠の生命」，または不従順による霊的な「束縛と死」のいずれかを自分で選ぶという特権が与えられている。（Ⅱニーファイ2：27）

自由意志は神が人に与えたもうた賜の中で生命の次に大いなる賜である。

それは，神の子供たちがこの死すべき第2の位で進歩するうえで大切なものである。アメリカ大陸に住んだ予言者はこのことについて，主の永遠の目的を成就するためには反対がなければならないと，古代の聖典で息子に説明している。そして一方では善による誘惑他方では悪による誘惑が必要であると言った。聖典の言葉によると，「禁断の実に対しては生命の木があってこれは甘くかれは苦かった。」とある。さらに説明は続く。「それであるから，主なる神は随意に行う自由を人間に許したもうた。しかし人間はもしもあれに誘われこれに誘われなければ，随意に選び行なうことはできないのである。」（Ⅱニーファイ2：15—16）

神から与えられた計画の第2の原則では贖いをする救い主の必要性が伴う。この贖いにより，神の最も愛したもう御子は，ヨハネがパトモス島で示現に受けたように「世の初めから」「ほふられた小羊」として私たちの救い主となられた（黙示13：8）今1人の予言者は神の御子の使命について，「あらゆる人間のためにとりなしをしたもう。それであるから，メシヤを信ずる者は救われるのである」と言っている。（Ⅱニーファイ2：9）

救いの計画をよく理解していない人々が，神の恵みだけで人は救われると言うのをよく耳にする。しかし神の恵みについて正しい教義を理解するためには，もう1人の予言者が意味深い言葉で述べている次の説明が必要であろう。

私たちが力をつくして書き誌すのは，自分たちの子孫と兄弟たちを説得してキリストを信じさせ，神との一致を得させるためであり，それは人が最善をつくしてはじめて，神のめぐみにより救われることを知っているからである。（Ⅱニーファイ25：23）正に，私たちは世の救い主の贖いの血によって贖われるのではあるが，それは自身の救いのためにできることをすべて成し遂げた時にのみ言えることである。

救いの計画の第3番目の大いなる原則はすべての人類は，福音のおきてと儀式とを守ることによりて救われ得る」ということである。（信仰箇条第3条）救いをもたらすこれらの重要なおきてと儀式は次のようにはっきりと打ち出されている。

第1，主イエス・キリストを信ずる信仰。

第2は罪の悔改めであり，これは神のおきてに対する不従順の罪を離れた後，二度と再び同じ罪を犯さないことを意味する。この点について主は明白に言われた。「汝ら往きて今より罪を犯すなかれ，罪を犯す者（当然，悔改めた筈の罪を，再び犯すことを意味する）には前の罪彼に返るべしと主なる汝らの神言う。」（教義と聖約82：7）

第3は水と霊によるバプテスマである。主がニコデモに教えられた通り，この儀式によってのみ人は神の国を見，そこへ入ることができるのである。」（ヨハネ3—4—5参照）

復活された救い主は，同じ教えをアメリカ大陸の聖徒たちにも力強く印象づけておられる。おそらく弟子たちに送る最後のみ言葉であったと思われるが，主は忠実な聖徒たちに教えられた。「清からざるものは御父の王国に入ることを得ず。信仰をし，すべての罪を悔い改め，終りまで誠をつくし，以てわが血によりてその衣を洗いし者のほかには御父の安息に入り得る者なし。さて，世界の隅々に至る者たちよ。汝らは聖霊を受けて聖められ，また終りの日にわが前に罪なしとせられんために今悔い改め，われに来てわが名によりてバプテスマを受けよ。これ汝らに与うる命令なり。われまことにまことに汝らに告ぐ，以上はわが福音なり。」（Ⅲニーファイ27：19—21）

国籍や肌の色，主義を問わず，地上に住むすべての者を含めた神の子供たちがイエス・キリストの福音を伝える真の使いの言葉に耳を貸すならば，主が約束された通りすべての人はやがて主にまみえ，主を見分けるであろう。その時人々の受けた召しと選びとは確かなものとなり[4]，彼らは「モーセの息子たちとなり，アロンの息子たちとなり，アブラハムの子孫となり，また……神の選民となる」のである。（教義と聖約84：34）

終りまで忠実な者に用意されたこの栄えある約束は，主がなされた放蕩息子のたとえ話の中にはっきりと描かれている。忠実で自分の相続権を無駄にしなかった息子に対し，主が天父なる神にたとえられた，その父親はこう約束している。「子よ，あなたはいつもわたしと一緒にいるし，またわたしのものは全部あなたのものだ。」（ルカ15：31）

主は近代の予言者を通して，今日忠実で従順な者に対する約束として啓示している。わが父のもてるすべては彼に与えらるべし。」（教義と聖約84：38）

それとも，私たちはナイアガラの滝の上流にいて，危険な急流に近づこうとしているむこう見ずな者と同じようになろうとするだろうか。安全な方向を知らせる番人の警告があるにもかかわらず，むこう見ずな者は完全にそれを無視し，笑い飛ばし，飲んだり踊ったり，馬鹿にしてついには朽ち果ててしまう。

見るからに気違いじみて，「狭く細い道」[5]を通って自分のもとへ来るように説得してもいつも耳を貸さない当時の世を目にして，イエスは涙を流された。神の永遠なる救いの計画ではこの狭く細い道がはっきりと示されているのである。

イエスがその昔次のように叫んだ言葉は今日でも私たちの耳に聞える。「あ

あ，エルサレム，エルサレム，予言者たちを殺し，おまえにつかわされた人たちを石で打ち殺す者よ。ちょうど，めんどりが翼の下にそのひなを集めるように，わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それだのに，おまえは応じようとしなかった。」（マタイ23：37）

黙示者ヨハネの語る今1つのたとえ話にあるように，当時イエスがエルサレムの人々に聖なるみ姿で訪れた如く今日でも私たちを訪れたもうことを，世の人々は知るであろう。

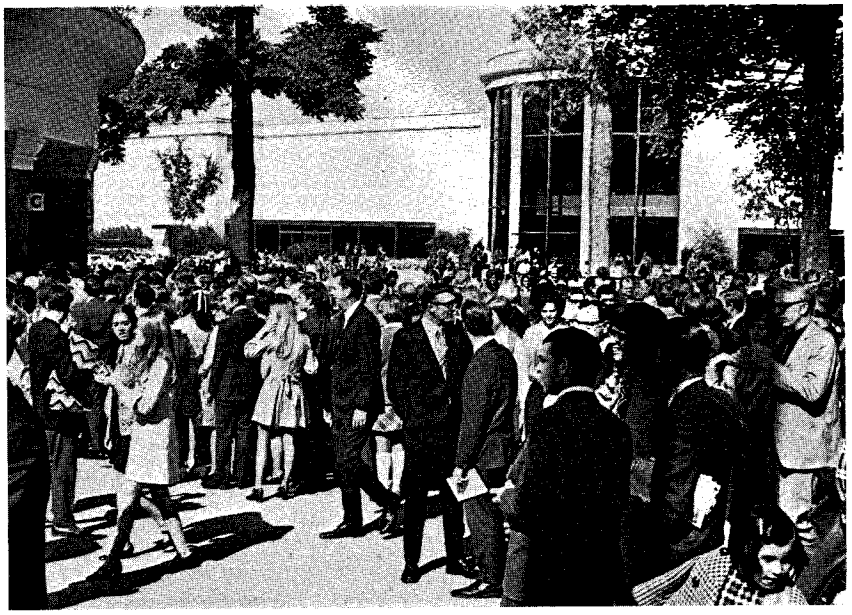
主は言われた。「見よ，わたしは戸の外に立って，たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるならわたしはその中にはいって彼と食を共にし，彼もまたわたしと食を共にするであろう。勝利を得る者には，わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど，わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である。」（黙示3：20—21）

そして今，使徒や予言者たちという土台の上に建てられ，主キリストを隅のかしら石とした（エペソ2：20）真の教会が教える救いの計画がここにある。平安は主キリストによってのみもたらされる。それは世が与えるようなものとは異なり，主ご自身と同じく世のものに打ち勝つ者に主だけが与えられる平安である[6]。

「この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は，これを別にしては，天下のだれにも与えられていないからである。」（使徒4：12）

このことをすべて私は心から主イエス・キリストのみ名により証するものである。

最近ある集会で，私はある少女の心暖まる証を聞いた。彼女の父親は医師から不治の病いと宣告された病気に苦しんでいた。この父親は1晩苦しんだあげく，あくる朝心の底から妻に言った。「今日も感謝しているよ」「何のこと？」彼女は尋ねた。彼はこう答えた。「神がもう1日君といられる日を私に与えて下さったことだよ。」



私は，今日この放送を聞いておられる方々も同じように，神が今1日与えて下さったことを感謝するよう心からお願いしたい。何のために？それは何かやり残したことをするためである。悔い改めること，誤りを正すこと，わがままな子を良い方向に導くこと，助けを求める人に援助の手を差しのべること，つまり神に合う用意をするために神が今1日を与えて下さったことに感謝するのである。[7]

いたずらに先走ってはならない。今日の問題に立ち向かう力を求めよ。主は山上の垂訓でこう忠告しておられる。「あすのことを思いわずらうな。あすのことは，あす自身が思いわずらうであろう。1日の苦労は，その日1日だけで十分である。」（マタイ6：34）

自分にできるすべてのことをなし，あとは私たちの父である神に委ねよ。最善を尽しますと言うだけでは十分ではなく，自分の力の及ぶこと，必要なことはすべてしますと言うべきである。

ニューヨーク市にある市立ラジオ音楽堂の壁に，以下のような深い意味あいのある言葉が刻まれた額が掛けられている。

「人の究極の運命は，新しい知識，発見，征服をものにしたことで決まるのではなく，教えられた知識を受け入れることにかかっている。」

これらの知恵ある言葉が今日ここで聞いているすべての人たちの決心にとってかわるよう，そして私たちの目が神にふさわしく正しいものとなるよう私は祈りたい。また全身が光明に満たされ，私たちの中に暗黒がないよう，そしてすべてのことを理解することができるように祈る。（教義と聖約88：67参照）

神はそのようになると認めておられる。イエス・キリストのみ名によりて祈り奉る。アーメン。

1．イザヤ　25：4参照
2．アブラハム　4：16—18，26参照
3．モーセ　1：39参照
4．Ⅱペテロ　1：10参照
5．マタイ　7：14参照
6．ヨハネ　14：27参照
7．アルマ　34：32参照

1970年10月3日，土曜日朝の説教

「偽善者よ、あなたがたはわざわいである」

第二副管長
N・エルドン・タナー

つい先日のこと，私と話していた人がこのようなことを言った。「ほらあそこに行く人，彼は全幅の信頼をおける人ですよ。彼がいつもどんな立場をとっているかご存知でしょう。彼は決して偽ったりしません。いつも誠実で，飾らないんですよ。」

同じ日，ある人が別の人についてこう言った。「彼がどんな立場をとるかあなたにわからなくても大してまずいことではないですよね。彼の言葉が当てになるかどうかなんてわかりっこないんですから。主だったら彼をきっと偽善者と呼ぶことでしょう。」私は彼に同意したい気持であった。

今日私が話をしたいと思うテーマは偽善である。それも特に，いたるところにいらっしゃる末日聖徒イエス・キリスト教会の会員に申し上げたい。今や私たちの教会には約300万の会員がおり，あらゆる人々がいる。主と同胞に対して充分な働きをし，自分のすべてを捧げる備えのできている人々から，まだ本当の意味で改宗していない人々，イエス・キリストの福音を実践する意味やどこにあっても活発にみ業に働く意味のわからない人々まで，いろいろな人々がいる。

もし私たちが主の祝福を受け，接する人々から信頼を得ようとするならば，福音を実生活に生かし，また正直で活発に福音の教えを実践し教えるよう備えをしなければならない。決して自分を偽って装うべきではない。イエス・キリストの福音は私たちがいかに生くべきかを教えている。偉大な福音の真理をいくつか調べてみたいと思う。

主は言われた。「これわが業にしてわが栄光，すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。」（モーセ 1：39）

「わたしはよみがえりであり，命である。わたしを信じる者は，たとい死んでも生きる。また，生きていて，わたしを信じる者は，いつまでも死なない。」（ヨハネ 11：25—26）

主をためそうとして，「律法の中でどのいましめがいちばん大切なのですか。」と尋ねた律法学者に答えて主は次のように言われた。「『心をつくし，精神をつくし，思いをつくして，主なるあなたの神を愛せよ。』これがいちばん大切な，第一のいましめである。第二もこれと同様である。『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』これらの二つのいましめに，律法全体と預言者とが，かかっている。」（マタイ 22：36—40）

またこうも言われている。「父なる神のみまえに清く汚れのない信心とは，困っている孤児ややもめを見舞い，自らは世の汚れに染まずに，身を清く保つことにほかならない。」（ヤコブ 1：27）

私たちには非常にはっきりとした言葉で十戒が与えられている。そこには何らの注釈も必要ではないし，疑問の余地を残していない。山上の垂訓で，キリストが人類に向かって言われたことにも，そしてまた私たちを導く主の「みたま」と恵みを受けたいと望む時に私たちが何をなすべきか教えられたことにも疑いはない。さらに，私たちには自分の人生を司る高度なおきてを述べた信仰箇条がある。

イエスは言われた。「わたしにむかって『主よ，主よ』と言う者が，みな天国にはいるのではなく，ただ，天にいますわが父の御旨を行なう者だけがはいるのである。」（マタイ 7：21）

この末日に主はこう言っておられる。「汝らわが言うところを行わば，主なるわれこれに対して責任あり。されど，汝らわが言うところを行なわずば汝ら何ら約束を受けず。」（教義と聖約 82：10）

そして栄光あふれる次の約束を与えられた。「この誡命に従って歩むすべての聖徒らは，そのへそに健康を受けその骨に髄を受けん。また智恵と知識の大いなる宝まことに秘れたる宝を見出さん。而して走れども疲れず，歩けども気を失うことなからん。主なるわれ彼らに一つの約束を与う。すなわち，さつりくの天使はイスラエルの小児たちが如く，彼らを過ぎ越して屠ることなかるべし。」（教義と聖約89：18—21）

私たちは真実の信仰をもつように戒められ，悪や偽善に警戒せよと注意を促されている。事実，主は偽善の悪を非常に強調しておられる。あることを公言しておきながらそれと違うことを行なう者を，主はきびしく非難された。「偽善な律法学者，パリサイ人たちよ。あなたがたは，わざわいである。へびよ，まむしの子らよ，どうして地獄の刑罰をのがれることができようか。」（マタイ23：29．33）

辞書によると，この「わざわい」とは，みじめあるいは悲しい状態，非常な苦悩，不幸，苦難，悲嘆な状態などを意味する。「偽善者」とはありもしない信念や主義を，さも持っているかのように装う人，自分を偽る人，特に徳や信仰があるように見せかける人のことである。

福音書には救い主が偽善についていろいろな例を述べていることが記録されているが，いずれの場合も主はこう言われている。「偽善な律法学者，パリサイ人たちよ。あなたがたは，わざわいである。」

私は偽善のもたらすいろいろなとがについて述べたいと思うが，それらが私たち自身にどのようにあてはまるか，自分自身をふり返って見る必要があると思う。今日の世の中の状態を見てみると，正義の原則や慎しみが無視され，偽善がはびこって国家や個人の問題が悲しい状態に置かれている。

主はこう言われた。「そのすることは，すべて人に見せるためである。……また宴会の上座，会堂の上席を好み……やもめたちの家を食い倒し，見えのために長い祈をする。だから，もっときびしいさばきを受けるに違いない。……はっか，いのんど，クミンなどの薬味の十分の一を宮に納めておりながら，律法の中でもっとも重要な，公平とあわれみと忠実とを見のがしている。それもしなければならないが，これも見のがしてはならない。盲目な案内者たちよ。あなたがたは，ぶよはこしているが，らくだはのみこんでいる。……杯と皿との外側はきよめるが，内側は貪欲と放縦とで満ちている。あなたがたは白く塗った墓に似ている。外側は美しく見えるが，内側は死人の骨や，あらゆる不潔なものでいっぱいである。このようにあなたがたも，外側は人に正しく見えるが，内側は偽善と不法とでいっぱいである。…あなたがたは預言者の墓を建て，義人の碑を飾り立てて，こう言っている，『もしわたしたちが，先祖の時代に生きていたなら，預言者の血を流すことに加わってはいなかっただろう』と。」（マタイ23：4—6，14，23—25，27—30）

クリスチャンと公言している私たちにもこのような誤ちがないかどうか，自問してみたらよいであろう。今日でもごくありふれたことであるが，当時律法を厳格に守った兄弟愛があった。しかし彼らは他の人をすべてけいべつと非難の目で眺め，無視した。そのため表面的には異教を避けていても，精神的には異教を受け入れていた。

律法を文字通りに守るだけでその精神を忘れ，同胞に対してあわれみと信仰を示さないという罪を犯している人が私たちの中にいないだろうか。心構えを変えることよりも，人の目につく表面的な行ないをする方に重きを置いていないだろうか。体の内側を清める唯一の方法は，謙遜になって悪に向かっていた心を入れ変え，またできる限りイエス・キリストの福音を実践することにより心を清めることである。人を欺くことはできても神を欺くことはできない。

今日の文明がすべて白く塗った墓に似ているという危険はないだろうか。今や目を見張る機械類，高くそびえ立つ建物，そして進歩と称するものが無数にある。しかしその裏には不安があり，人と国家の争い，貧しい者の救われ得ない重荷，大規模な戦争による死者の骨が内在しているのである。だれかが言っていた。「それでも私たちは墓に塗料を塗って自分を守ろうとする」と。

いろいろな犯罪が生じ，田舎から都会へと人口が流出している状態にあって，道徳が低下したり好色文学や映画が横行しようとも，私たちは正義のためにしっかりと立たなければならない。

私たちはまた人生を台無しにし，本人だけでなくまわりの者にも大きな不幸を与える薬の乱用に関心をもつべきである。しかし大人の生活にある偽善は，これによって反抗をしようとしている若者にとって重大な影響力を有する。つまり，自分で悪い習慣を受け入れていながら，子供が他の方法で自分のまねをするとヒステリーを起こすような偽善者の影響は子供に及ぶのである。大人が正しい模範を示す時にのみ子供は大人の言葉に耳を傾ける。

法律やその他の手段によって，若人を悪の習慣に落し入れようと狙っている者の手に渡さないようにする責任が年々増しているが，同時に私たちは悪

の習慣に陥った人を立ち直らせる責任をおろそかにすることもできない。私たちはいかにしたらクリスチャンだと自称し，隣人すなわち助けのいるすべての人を愛すると言えるだろうか。またアルコール患者や麻薬中毒者，仮釈放になった人々を助ける施設を作ろうと尽力している人と協力できないわけがあろうか。それでも現実にそのような施設が自分たちの周囲に入り込むのを嫌って，人々の努力を妨害しようとする人がいる。こういった不幸な人々こそ私たちの助けが必要なのである。私たちは確かに良きサマリヤ人となって，できる限り人々を助けるよう備えをしなければならない。

智恵の言葉を正確に守っている人が何人いるだろうか。そして自分のことは棚に上げておきながら，他人を非難することに夢中になっている人が多くはないだろうか。また事業家として神経質なほどに礼儀正しく，教会にもきちんと出席していながら，社会の明らかな不平等を受け入れている人，隣人との交際で不正あるいは不公平な人がいるのではないだろうか。

私たちは本当に心から隣人の福祉に関心を抱いているだろうか。未亡人や孤児を訪問したり，貧しい人や困っている人を慰め，食物や着物を分け与えているだろうか。予言者アルマはその昔，「人民相互の間に非常な不平等があって，ある者は甚しく傲慢になってほかの者をいやしみ，貧しい者や着物のない者や飢えている者や渇いている者や病気をしている者や悩んでいる者をかえりみないことを認め」ている。

聖典には，「これはまことに民を非常に悲しませるもとになったことであるが，一方には……およそ救助を要する者を救助し，たとえば貧しい者に持物を分け与え，飢えた者に食物を与え」た人がいたと記されている。（アルマ4：12—13）

最近扶助協会の組織やプログラムが変わったことで，姉妹たちは扶助協会創立当初の目的，すなわちシオンの母親や娘たちの霊的，知的，道徳的福祉をはかるということにさらに多くの時間と精力を使えるようになった。姉妹たちのなすべきことは，福音を教え，あらゆる世代の女性に立派な主婦になる準備をさせ，助けの必要な人に心からの奉仕をすることであろう。

このすばらしい組織に参加する姉妹たちが毎週何千時間もの慈善奉仕をしているにもかかわらず，援助の手を差し伸べられていない病人や孤独な人，慰めのいる人が依然として多い。私たちはあらゆる機会をとらえてまわりにいる困っている人々に助けを与え，慰めなければならないのである。利己的な考えからこの世の富や宝を得ることばかりに夢中になって，このような義務や機会を無視してはならない。

私たちはよく，隣人に愛を示したり教会の定例集会に出席するという宗教活動を他の活動と比べて，自分たちも決して負けないだけのことはしているなどと言い訳をつけて教会の活動から逃れようとする。またこう言う人がいる。「あの人みたいに偽善者にはなりたくないから私は教会へは行かないんです。教会へ行かなくても宗教的になれますよ。湖や山で自然と親しむことによっても神を礼拝できますしね。」

主が何と言われているか耳を傾けていただきたい。「汝なおさら充分に世の汚れに染まざる様祈りの家に行きてわが聖日に汝の聖式を捧ぐべし。そは誠にこの聖日は，汝命ぜられて働きを休み，いと高き者に礼拝を捧ぐべき日なればなり。さりながら汝の誓言は，正しく毎日常に神に捧げられざるべからず。」（教義と聖約59：9—11）

福音のどの部分が正しいとか，どれを実践すべきだとか私たちが選ぶべきではない。私たちの人生はどれひとつとして切り離したり，区分したりすることはできないのである。主はこう言われた。「それもしなければならないが，これも見のがしてはならない。」（マタイ23：23）

私たちはまさにその行ないにおいてクリスチャンでなければならないし，その生活によって主なる神に愛を示し，互いに愛し合い，関心を持つべきである。私たちはすべて自分の家を整えておくべきであり，偽善者であってはならない。

牧師であり作家であった米人ハリー・エマーソン・フォスディック（1878—1969）は，偽善には２つの種類があり，自分をより良く見せようとする場合と，悪く見せようとする場合があると述べている。私たちは今まで自分をより良く見せようとする方の偽善について考えてきた。しかしそれとは逆に心の中では理解しているし信じていながら，人の口を恐れるあまり立ち上ってその立場に加わろうとしない教会員をよく見かける。この種の偽善も今１つの方と同様に重大なものであり，人はこの偽善によって私たちを尊敬しなくなってしまう。そして，私たちが教会に対する聖約を守りためらうことなくその信仰を表わすと思っている教会員によくない影響を及ぼすことになる。

私たちがキリストの教えを実践しようと真剣に努力する時にのみ真の霊的成長がある。私たちはどんな立場にあっても恐れることなく自分の信念をつらぬき，教会の標準に従って行動すべきである。人はとやかく言い，あざけり笑うかもしれないが，私たちに期待し，またもしそうするならば尊敬するのである。高い標準に従って生活する時に良心的で公正な人々に不快感を与えるはずはない。

そんなに以前のことではないが，私は改宗して間もないある父親，母親，そしてその幼ない息子と話したことがあった。話の中で父親は自分たちは不活発になって教会に出席していないと言った。それを聞いて私はその理由を尋ねた。父親は，宣教師たちは立派で清い生活を送る正しい人の模範を示してくれたが，いざワード部へ行くと教会で教えていることを実践していない人や公言している通りのことを行なっていない人が目につき，失望して教会に対する信仰を失ってしまったと説明した。このことは重大な２つの教訓を示していると思う。第１に，人々の生活に良い影響を与えるよう，また私たちの生活にある偽善によって人々の心に疑惑を抱かせないようにするのは私たちの責任だということである。

もう１つの教訓は，私たちは人の生活にある偽善から影響を受けたり，疑いを抱いたりして福音の教えに従った生活をしなくなることのないよう，常に自分自身を守らなければならないということである。

最も大切なことは，私たちは教会員として真理と正義のために一致団結し，しっかりと立つことである。私たちはキリストの福音を持ち，悪に立ち向かうことを世に宣言している者である。断固として立つ者となるのか，それとも風の吹くままに揺れ動[1]こうというのであろうか。心からよりも口先きだけの奉仕を好むから，あるいは何か政治的な圧力が加わるからと言って，世の人を喜ばせるために正義を見捨てるのであろうか。

私たちはヨハネが次のように述べた人に似る者となってはならない。「しかし，役人たちの中にも，イエスを信じた者が多かったが，パリサイ人をはばかって，告白はしなかった。……彼らは神のほまれよりも，人のほまれを好んだからである。」（ヨハネ12：42—43）

私たちひとりが公言している通りの者となり，本当の意味で献身的な真のクリスチャンとして毎日を送り，偽らず，正直，真実，貞潔，慈善，高徳であってすべての人に善を行ない，徳高きこと，好ましきこと，よき聞えあること，あるいはほむべきことを尋ね求めるならば，300万の会員を有する教会の世に与える影響がいかに大きいか想像していただきたい。

予言者の言葉に耳を傾け，それに従って生きようではないか。いにしえの律法学者のように救い主を拒み，またその教えと生涯を拒むことによって主の苦悩を増すことのないようにしようではないか。主の教えこそ私たちが現世において幸福を得，来世において永遠の生命を得るものである。主が偽善者を戒めて言われた数々のみ言葉の結びにあてはまる者とならないようにしようではないか。

「見よ，おまえたちの家は見捨てられてしまう。わたしは言っておく，『主の御名によってきたる者に祝福あれ』とおまえたちが言う時までは，今後ふたたび，わたしに会うことはないであろう。」（マタイ23：38—39）

神は生きたまい，イエスはキリストであり生ける神の御子であること，また福音が回復され，その教えによって生活するならば私たちは永遠の生命を得ることを証し，イエス・キリストのみ名によりへりくだり祈り奉る。アーメン。

1．ヤコブ1：6参照
2．信仰箇条第13条
3．マタイ　16：16参照

いなごの食べた年

十二使徒評議員会会長代理
スペンサー・W・キンボール

兄弟姉妹，および友人の皆様，特に海外からこられた方々や言語を異にする方々と共にこのすばらしい大会に臨むことは私の喜びとするところである。

私たちが今いる所より約90メートル右手には石の球をいただいた美しいみかげ石の記念碑があり，その上に青銅でできた2羽のカモメがとまっている。この記念碑の前に立った何百万もの旅行者は，「モルモン開拓者への神の恵み」と題する興味深い話を聞いている。

青銅でできた鳥は，教会がその手を大きく伸ばしているように，世のすべての人々を包もうと羽を大きく広げている。そしてみかげ石の球は全世界にあまねく行き渡る教会の姿を予言し，人手によらず山より切り出されている石の転がり出でて，ついに全世界に充ち満つる[1]とダニエルが解き明かした言葉を思い出させる。

記念碑には不毛の未開地や牛車隊，そして農夫が腕を大きく広げて種をまいた話などが刻まれている。そこに描かれているものは，情，容赦なく押し寄せるイナゴの大群であり，土に埋まり，腰をかがめながら力なくなれない手つきで人間がくり広げるイナゴとの果てしない戦いであった。人は絶望に打ちひしがれていた。女性も労苦にやつれて身体全体から何かしら哀れさがただよい，無情な空に向かって頭を上げていた。人々は頭上にカモメを見つけた。カモメは惨害の終りを告げに来たのであろうか。カモメがイナゴを退治し，助かった穀物に収穫があったことが記されている。今やひどい飢きんはまぬがれたのであった。

イナゴやその他の虫に襲われて被害を受けたのはエジプト人が初めてでもないし，ましてやモルモン教徒が終わりでもない。数年前にオーストラリアを訪れた時，私は「束を落した」という言葉をよく耳にした。これは私たちがよく使う「成功しなかった」，あるいは「取返しのつかない失敗をした」という意味の言葉であることがわかった。旧約聖書を開くと，昔の人々がこういう状態を「イナゴの食べた年」(ヨエル2：25）という言葉で示していたのがわかる。

イナゴは触角が短く太く，前の羽をこすって聞きおぼえのある音を出す太い足と長い後足を持った大群を成す昆虫であると言われている。川に沿った低地や日当りのよいくぼ地で繁殖し，驚くほどの率でふえる。やがて日の光を隠してしまうほどに空をおおってしまう。この大群は世界の各地を襲ったように合衆国西部をも悩まし，何億ドルもの被害と荒廃をもたらした。その結果は多大な飢きんと莫大な数の死者であった。

ユタのイナゴ戦争同様，この昆虫についてはエジプトの話にもたくさん出てくる。

モーセとアロンは奴隷たちを解放するためパロに嘆願したり，脅迫の手を使った。王は冷酷なうえになかなかのくわせ者で，がんこな人だった。災を被るたびに約束をし，それが鎮まると今度は自分の約束を無視するのである。

モーセはこう警告を発している。

「神，主はこう仰せられる，『いつまで，あなたは，わたしに屈伏することを拒むのですか。民を去らせて，わたしに仕えさせなさい』。」（出エジプト10：3）

引き続き災難がやってきた。「川の水は，ことごとく血に変り」，「かえるはのぼってエジプトの地をおおい」，「おびただしいあぶがはいり」，「地のちりはぶよとなった」。またモーセがかまどのすすをまき散らすと，これは「人と獣に付いて，うみの出るはれものとなった。」

次に「雷と雹」があって「火は地にむかって，はせ下った。……雹は……すべて畑にいる人と獣を打った。雹はまた畑のすべての青物を打ち，野のもろもろの木を折り砕いた。……亜麻と

大麦は打ち倒された。大麦は穂を出し亜麻は花が咲いていたからである。」（出エジプト７：20，８：６，24，17，９：10，23，25，31）

パロの度重なる拒絶に対し，モーセは主の言葉を引いて言った。

「民を去らせ……なさい。もし，……拒むならば，見よ，あす，わたしはいなごを，あなたの領土にはいらせるであろう。」（出エジプト10：３—４）

「あなたがたが多くの種を畑に携えて出ても，その収穫は少ないであろう。いなごがそれを食いつくすからである。」（申命28：38）

「朝となって，東風は，いなごを運んできた。……地は暗くなった。エジプト全国にわたって，木にも畑の青物にも，緑の物とては何も残らなかった。」（出エジプト10：13—15）

毛虫が残したものをいなごが食べ，イナゴが残したものを芋虫や青虫が食べた。そして他の穀物もすべて食べつくされた。

「イナゴの食べた年」という言葉を思い出すたびに，私は多くの人々が無にした週末や年を深く考えさせられる。

遠く離れた州から，１年前にバプテスマを受けた人の手紙が届いた。彼の手紙をここに引用したいと思う。

「教会の名簿から私の名前を取り去って下されば幸いと存じます。教会があまりにも大きなことを要求しているのがわかりました。私は宣教師によって教えを受け入れるよう導かれました。次に私は自分のバプテスマが計画されていることを知りました。このことをまったく後悔しているわけではありません。私のためになったからです。とうとう私は首をつっ込んでしまったことに気がつきました。私は禁止されたタバコ，酒，コーヒー，茶を飲まずにはいられません。飲んでいる時よりもやめた時の方が不安なのです。心の中では受け入れようとするのですが，いざ仲間と楽しみを分かち合えないと受け入れられないのです。それに日曜日に３時間から５時間も時間を使ったり，かせいだ金の10分の１を払うなんてできません。これは私の本能に逆らうことです。……あなたにこのような御迷惑をかけて申し訳ありません。だれも責任を感じる必要はありません。私だけの責任ですから。私を許していただきたいと思います。私の決心はもはや動かせないものです。」

彼の動かぬ決心は実に悲しいものである。彼の年月は追いかけっこのようなものであり，まさしくイナゴに食べられ，その他多くの害虫に食べられてしまう。そして彼はこの世的なものへ戻って行くのである。

これに反して，私たちの多くは大てい安息日に４，５時間捧げてもいらいらすることもないし，収入の10分の１を払ったり，上の４つを禁止されても心を騒がせる必要はない。

マーデンはこう言っている。「流れてしまった水で粉をひくことはできない。」（オリソン・S・マーデン，「前へ向かって」第１巻P.13）

何日か前に，新しく会員になった家族と握手をしたが，彼らの顔はほほ笑んでいた。会員になってどのくらいかと尋ねると，返事は「２カ月です」ということだった。それから熱心に，そして少し残念そうにこう言った。「今までの年月を考えると，教会に来ていればもっと幸せな日々が送れたろうにと思います。」イナゴが彼らの年を食べてしまったのだ。

次のように言う人もいる。「『ああそれはやった』，『ああそれはやらなかった』という言葉は，人生を後戻りのために使い，昔の過失を取り戻せたらと考える多くの人々の無言の叫びである。」（マーデン，P.15）

1834年，予言者ジョセフ・スミスにより高等評議員会が組織された。次の文はL・D・ヤングから寄せられたものである。

「私は重大な過失を犯してしまった。そこで私は他の人の教訓となるよう，その記録を残しておきたいと思う。予言者は，私がこの高等評議員に選ばれた兄弟たちと同席するように求められた。私はそうする代りに非常な熱意で，このように責任ある地位を果たす力が自分にはないことを申し上げた。それから予言者は私がこの役職を受けることだけを望んでいると言われた。しかし私が依然として断わり続けたので，予言者は他の人を指名した。その後予言者が私を神権の重要な職に召さなかったのはこの理由であったと思う。それ以来私は召される所へ行くようになった。そして神の国において導きを与えるよう召された人に逆らう判断を出さないようになった。」

イナゴの仕事はまだ続いていたのである。この善良な人が失ったすばらしい機会の年月を考えていただきたい。

ステーキ部長からワード部の監督になるように言われて非常に心配した人がいた。彼の顔は蒼白になり，どもりながら断わりの言葉を言っていた。彼は，イスラエルの判事，人々の父，人々の指導者となる特権を断わったのである。ステーキ部長は単なる憶病から来ている不安だろうと考えて説得を続けたが，彼の決意は変わらなかった。

その日から「イナゴの食べた年」が何年も流れた。

これに関連して，私はシドニー・リグドンを初めとしてオリバー・カウドリ，マーティン・ハリス，および自分の好機となる道を自ら閉じてしまった多くの人のことを思い浮かべる。

「口に出してしまった言葉，放たれた矢，過ぎ去った人生，そして無にしてしまった機会，この４つは戻らないことを覚えよ。」（マーデン P.67）

信仰深い教会員であるこの若者は非教会員の美しい女性に夢中になってしまった。２人の交際が発展して結婚にゴールインしても，その結婚は「死が２人を分かつまで」という市民結婚の形であった。彼は弱々しく反対したが彼女の意見に押し切られてしまった。神殿における永遠の結婚など彼女には全然意味をなさなかったのである。

彼はいつの日か彼女を教会に連れて行こうという希望を抱いていた。しかし年月は非常な速さで流れ行き，家庭に福音のないままに子供が生まれ，成長して行った。すばらしい機会は過ぎ去り行き，年月は無駄に過ぎ去って再び取り戻すことはできなかった。時はいなずまの速さで飛び去り，決して呼び戻すことはできないからである。これらもイナゴの食べた年であろうか。

シェークスピアは書いている。

「人事にはおよそ潮時というものがある。うまく満潮に乗じさえすれば成功するが，かりにもこいつを捕えそこなうと，人間一生の航海は，不幸災厄つづきという浅瀬にとじこめられてしまう。今ちょうどそうした満潮の海にわれわれは浮んでいるのだ。まさに潮時がわがほうに有利である時に，これを捕えるが，でなければ，賭荷もなにも失くしてしまうだけのことだ。」（ジュリアス・シーザー，４幕３場）

イナゴはつねに世の中にあった。文明は害虫に悩まされている。

ベンジャミン・フランクリン[2]は次のように言った。「汝は人生を愛すや。さらば時を無駄に費すなかれ。そは人生を成すものなればなり。」

さらに別の人がこう言っている。「永遠それ自体は分を刻んでできた損失を取り戻すことはできない。」（エイジェント・ポスト）

「私は時を浪費した。そして今や時が私を浪費している。」（シェークスピア）

幼い頃，私は市民結婚をしたばかりのある若夫婦を見て非常に考えさせられた。彼はハンサムな，いなかの若者で毛なみのよい馬とゴムタイヤの馬車，そしてお金を持っていた。彼女の方は「舞踏会の花形」で，着ているものや評判を人がうらやむほどの良家の出であった。

２人の結婚はいわゆるとっぴなものであった。

両家とも子だくさんであったが，２人が最初に決めたのは「子供はいらない」ということであった。

２人はある種の手術を受けた。そして彼らの家庭には子供が生まれなかった。それでも２人には，ダンスや，乗馬，パーティなど楽しいことが続いていた。年月が流れ，見た目にも２人はふけてさみしそうであった。彼が最初にこの世を去って行った。小さな町の表通りに彼女は住居を構え，毎日郵便局と食料品店へ歩いて行った。歳月は矢のように飛び去り行き，腰は曲がってつえをついてやっと歩いていた。彼女のまわりにはさみしさがただよっていた。彼女の兄弟や姉妹たちは家族のことで手がいっぱいなためにめったに訪れることもなく，来てもすぐに帰ってしまう状態であった。昔のことなのでラジオやテレビもなかった。目がかすんで読書もままならず，人々はめったに彼女を見かけなくなった。そして彼女は忘れられていった。

ある日，死後何日か経った彼女が発見された。生涯ひとりぼっちであったように，死んだ時もひとりであった。彼女を埋めてくれる愛する子供もいなければ，涙を流し，嘆き悲しんでくれる人もいなかった。すべて無に等しい年月であった。イナゴの食べた年月だったのだろうか。

ある人がこう言っている。

「運命は汝のまわりにあるにあらず内にあるなり。汝自身が汝を造れり。」（マーデン P.404）

無計画は不毛と無益な結果をもたらす。運命はその翼をもって人をみがくが，自分の運命を決めるのは主に自分である。カール・G・メーザー[3]は次のように言っている。

「そして数々の書が開かれ，私のかたわらに守護天使が立ってその書を見ながらこう言うであろう。『見よ』と。そして私は見て，『なんと美しい』と言う。さらに天使は言う。『これはあなたがやればできたことである』。ページをめくって天使は続ける。『これはあなたが行なったことである』。」

世の中は取り逃がした機会で満ちている。今大会では，印象深い話がたくさんあった。それらは福音を教えられて受け入れなかった人々，高校，大学そして職場までもさぼった人，麻薬や不道徳な行ないで人生を無駄にした人，教会や地域社会での奉仕を喜んでできなかった人についてである。また改宗に回わり道をした人，永遠の結婚をしないでこの世だけの市民結婚をした人，人類を存続させるに不可欠な家族や家庭生活を崩壊し，害を与えるような薬を使った人などについても話があった。すべてこれらは，私たちが世にあっても世のものになってしまう必要はないことを示している。

私たちがすばらしい，機会をとらえ福音を完全に実践するよう，また希望ある運命すなわち栄ある永遠に向かって自身を備えるよう，イエス・キリストのみ名によって祈り奉る。

アーメン。

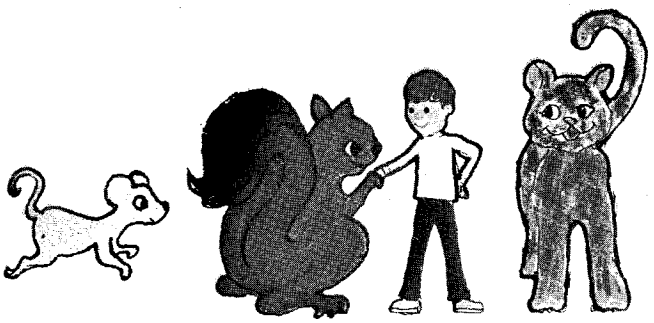
1．教義と聖約65：２参照

2．ベンジャミン・フランクリン（1706―1790），アメリカの政治家，科学者，発明家，および作家

3．カール・G・メーザー，ドイツ生まれの改宗者，ブリガム・ヤング大学の創始者

大きいかな 小さいかな

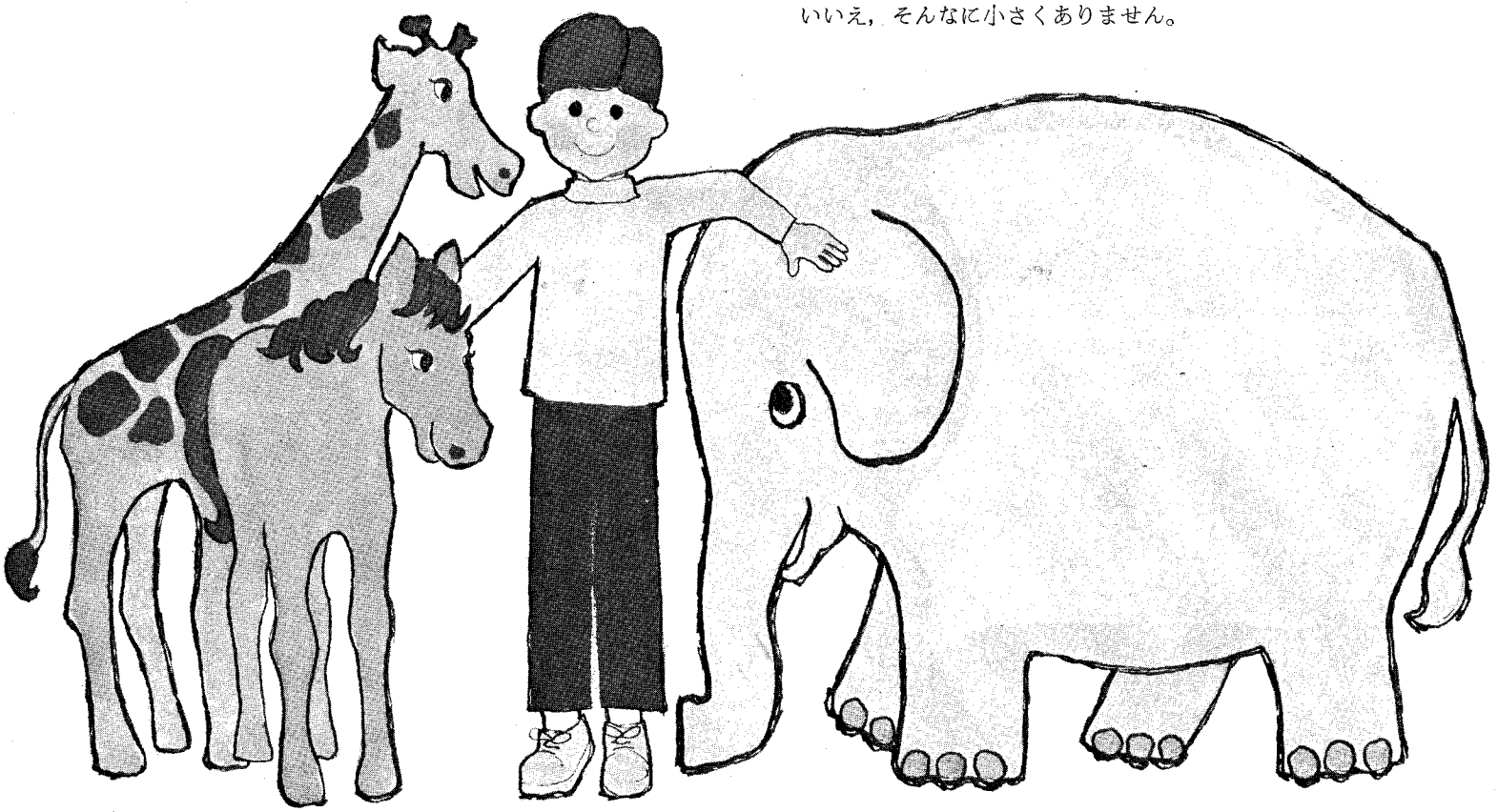
ルツ・H・ランドグレン



きみはどのくらい大きいの？

きみはりすぐらいかな。それともねずみぐらいかな。ねこぐらいかな。

いいえ，そんなに小さくありません。

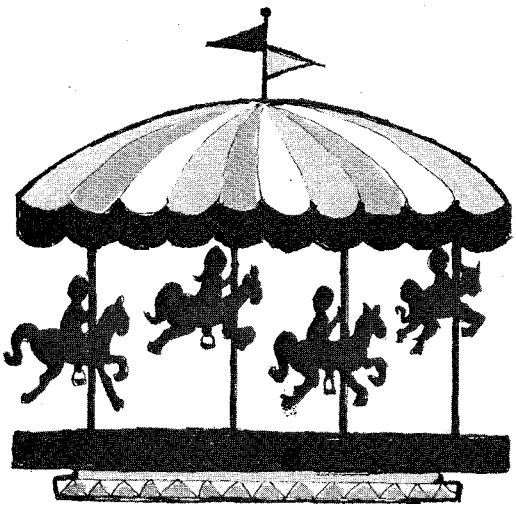


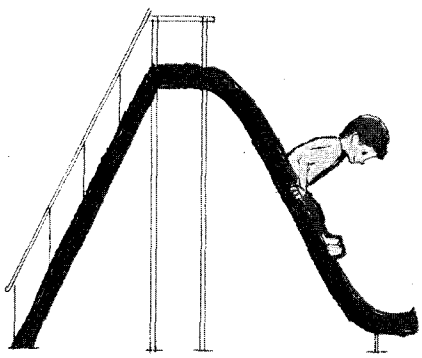
きみはきりんぐらいかな。それとも馬ぐらいかな。それともぞうぐらいかな。

いいえ，いいえ，そんなに大きくありません。

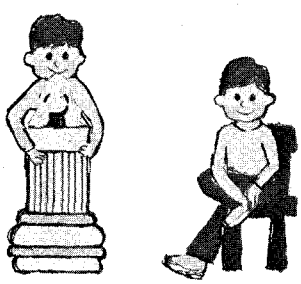
きみには大きすぎて，できないことがあるね。おにんぎょうのベッドでねたり，きんぎょバチの中でおよいだり，ネズミのかごにすんだり，コーヒーじゃわんのおふろにはいったりはできないね。

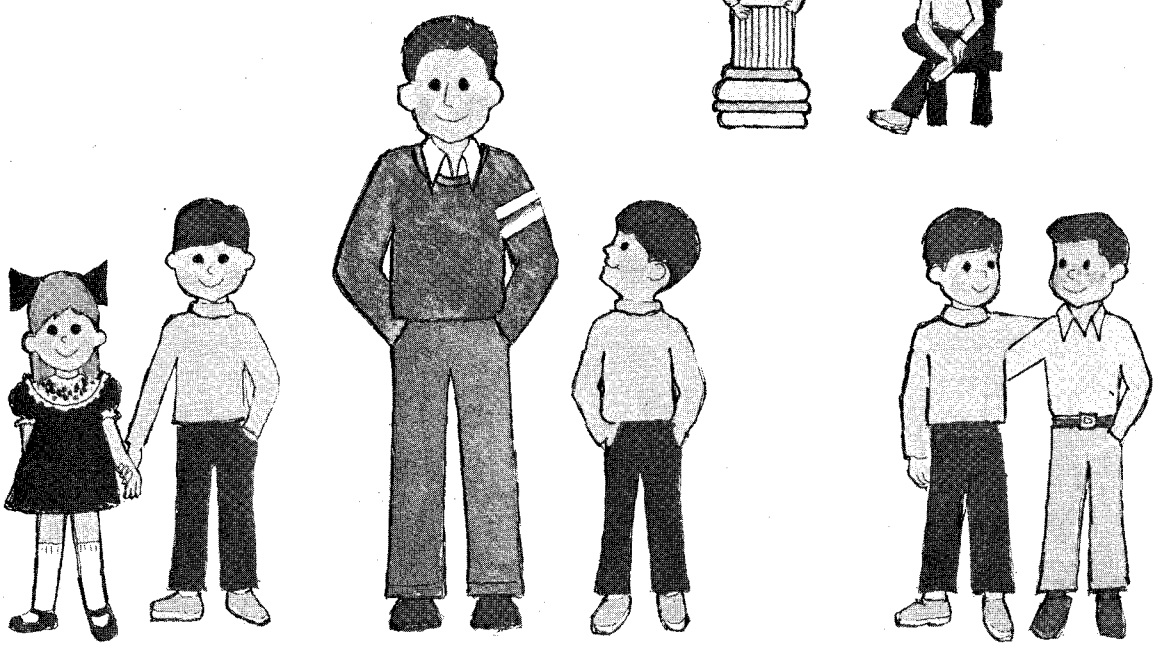
また，きみには小さすぎて，できないことがあるね。おふねをもちあげたり，ロケットを月へうちあげたり，大きなすいかをひとりでぜんぶたべたり，または，おとうさんをひざの上にのせたりはできないね。





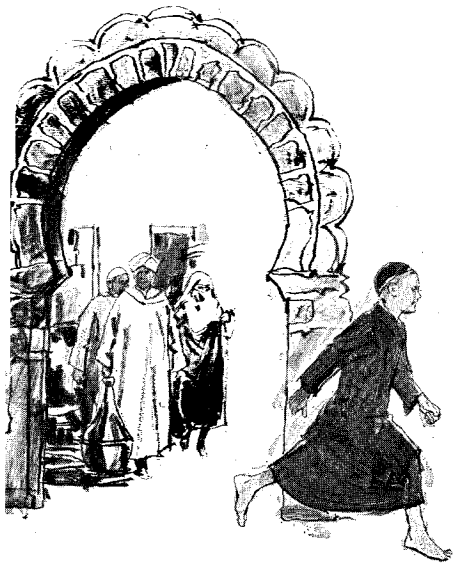
でもちょうどきみのからだにあったこともあるね。かいてん木馬にのることもできるし，すべりだいですべることもできるし，ぶらんこをこぐこともできる。





ひとりで水ものめるし，くつもはけるし，きみのからだにあったことがたくさんあるね。そう，いもうとのそばに立つと大きくかんじるでしょう。大きいおにいさんのそばにたつと小さくかんじるでしょう。きみのだいすきなおともだちとあそんでいるときには，ちょうどいい大きさだとかんじるでしょう。なぜなら，きみたちはほとんどおなじ大きさだから。

さて，きみの大きさはどのぐらいなの？



「あなたの言葉を信じます」

絵 ジェリー・ハーストン
作 バーナディン・ビート

アーメドは，古代カサブランカのちいきといわれている古代メジナの路地から，はとばに通じるハンサリ通りへむかって走っていきました。彼はしんぱいそうにかおをしかめていました。

アーメドはしごとにおくれたので，シデじいさんはさぞふきげんなことだろう。「わしらのボートが，毎朝みなとにいちばんはじめに入らねばならんのじゃ」とシデじいさんは何度も言っていました。アーメドにはそのわけがわかっていました。さんばしにとまっている，かもつ船からすてられる板を，（船の荷もつがぬれたり動いたりしないようにつかう板）一番早くとりにいった船が，一番いい板をひろえるからなのです。

ろじにはいつものれんちゅうがいっぱいたむろしていました。すなわち，西洋風の洋服をきている女の人，黒い目だけをだしてベールをかぶっている人，きたないターバンをまいたこじき，そしてフランス語とアラビヤ語をまぜたことばで，大声をあげている子供たちなどがいました。道ばたのコーヒ店では，アラビヤの服をきた男の人がせびろをきた人ととなりあってすわっていました。アーメドはわきめもふらずにそこを通りぬけました。

彼はシデじいさんのことしか頭にありませんでした。「じいさんには，ひとばんじゅう友だちをかんびょうしていたのでおくれました。といえばいい」と，ひとりごとをいいました。アーメドは，ふうーとためいきをつきました。年よりにうそはつきたくはありませんでした。しかし，もし，一晩中おまわりさんにおわれていたことが，シデじいさんにしれたらきっと彼はアーメドをうたがうことでしょう。アーメドにとって，かけがいのないゆめは，シデじいさんのしんようをうることでした。

アーメドは，シデじいさんに彼のボートをこぐようにえらばれた日のことを思いだしました。そこにはなん人ものぼろをきて，うえた少年たちがしごとをさがしていました。

「どうして，わしのところではたらきたいのかね」とシデじいさんはひとりづつ，じゅんばんにたずねました。少年たちはみんな「年とった方にお手つだいをしたいからです」とこたえました。シデじいさんのひようじょうはすこしもかわりませんでした。アーメドは，じぶんのばんがきたとき，ちょっとためらいました。シデじいさんは，どこかがアーメドの死んだおじいさんににていました。おじいさんが死んでからはアーメドは，この世でたったひとりぼっちになってしまいました。

アーメドはつい本当のことをいってしまいました。

「おじいさん，ぼくはおなかがすいています。たべ物ときる物をかうお金がほしいのです」シデじいさんは，かおじゅうしわだらけにしながら，にっこり笑いました。

「ついに，きまった。来なさい」とアーメドについて来るように，あいずをしました。

それいらい，アーメドはシデじいさんをあいし，そんけいするようになりました。彼は死んだおじいさんのような古いやり方がすきなのです。いつもシデじいさんとわかれる時には「神さまがいつもともにましますように」と言いました。

アーメドがはじめてシデじいさんの家をたずねていった時に，アーメドはびっくりしてぽかんと口を開けてしまいました。じいさんの家は小さいけれども，床には美しいじゅうたんがしいてあり，かべには，本がぎっしりとならんでいました。「おじいさんがまだ生きていたら，こんな家に住めただろうに」アーメドはつぶやきました。

「わしもまたひとりぼっちだよ」とシデじいさんは言いました。

「わしのつまも，たったひとりの子供もずーと前に死んでしまったよ」とかたをすくめて，むこうをむいてしまいました。

「お前はこの近くに住んでいるのかね？」とじいさんはそっけなくききました。

「はい！」とアーメドは答えました。彼の家がうすぐらいろじのはしにある木の小屋であることは言いませんでした。

それいらい，アーメドはシデじいさんの家で何じかんもすごしました。じいさんはよく本をよむことをおしえてくれました。ときには1—2時間たってから，じいさんはアーメドのかたに手をやさしくおきました。すると，アーメドの心には，こんやはとまっていきなさいときっと言ってくれるにちがいないと，きぼうがわいてきました。しかし，じいさんはただ，ためいきをつくだけでだまっていました。

アーメドがちこくをしたのは，シデじいさんのところではたらくようになってから，これがはじめてのことでした。じいさんがまだ彼をまっていてくれたのを見た時，彼はほっとしました。

「お前げんきかね？」とじいさんはあいさつをしてくれました。

「はい，おじいさんは？」とあいさつをかわしました。

「おそくなってすみません。」

「アーメド，どうしたのかね？」とじいさんはたずねました。

「ぼく，ぼくはー」といいはじめて，ためいきをつきました。

年をとったおじいさんにうそはつけませんでした。

「昨日バザーでさいふがぬすまれたので，ぼくはけいさつからおわれていました」

じいさんとアーメドの目がばったりあいました。

「お前となにかかんけいがあるのかね！」

「いいえ！」アーメドはさけびました。

「それをしょうめいすることは出来ませんが，昨日バザーの近くにはいきませんでした」じいさんはアーメドのかたに手をおきました。

「クラハワヘッド」と古いモロッコのことわざをいいました。それは「あなたの言葉を信じます」という意味でした。アーメドはみなとで一番大きな船の一番高いマストの上にいるようなここちがしました。シデじいさんは彼のことをしんようしてくれたのです。

「来なさい！」とじいさんは言いました。

「今日わしらはおくれてよかったかもしれん。もう，小さい船が入ってでて行ってしまったが，かわりにちょう度アメリカ船が入ってきたばかりだ。」

アーメドはじいさんのあとから，ボートにのってオールを持ちました。そしてうれしそうに笑いました。

アメリカの水夫たちはいつもほかの国の水夫たちよりもたくさんのよい物をみなとにすてるのです。アメリカ船のお客たちも手をふってあいさつをかわします。お客たちはよくアーメドにもっと船の近くまでこいできなさいとあいずをします。そしてお金やアメなどを船からなげてくれるのです。アーメドはじょうずにこいですぐにアメリカ船のそばに近づきました。ひとりの水夫があいずをすると，おもたい板をすべらせてよこします。まもなくボートにつめるだけつみました。アーメドを上から呼ぶ声がすると，いちばん上のかんぱんから手をふっているふたりの女のお客を見ました。

「ハロー」アーメドはこたえました。

シデじいさんからならったえいごでほこらしげにあいさつをかえしました。彼はボートをもっと船の近くにこいでいきました。するとひとりの女の人が手を上げました。この人のはめているゆびわがたいようにはんしゃして光りました。女の人が手のひらいっぱいのお金をなげると，それは青いほのおのようにかがやきました。そしてこの女の人はシデじいさんになにか言いました。

「あの方はなんと言っているのですか？」アーメドはたずねました。

「このお金でお前にあたらしい服を買ってやるようにと言っているのだよ」とじいさんは言いました。

「お前のことをわしのまごだと思っとるのだろう」

「そうだといいんだがなあ」と言うか言わないうちにアーメドは，言ってしまったことをこうかいしました。じいさんの顔はたちまちこわばってしまいました。アーメドはかなしくなりました。シデじいさんはぼくのことなんて，どうだっていいと思っているんだ，本当に。

女の人はまた声をかけてボートめがけてもっとお金をなげました。アーメドは身をかがめてそれをひろいました。するとお金の中に光るものがありました。それは女の人のゆびわではありませんか。お金をなげた時にゆびからおちたのです。すばやく，アーメドはゆびわをとりました。彼はちらっとあたりを見ましたが，シデじいさんは気がつきませんでした。アーメドはとっさにゆびわを手にとると，こしにさげているさいふに入れてオールをもちました。

上の方で，困りきったような声がきこえ，女の人が下にむかってききました。

「なんといっているのですか」とアーメドはたずねると，むりにじいさんの目を見ました。「あの方が，お金をなげた時に，ゆびからダイヤモンドのゆびわをおとしたのだよ。」じいさんはアーメドのそばに身をかがめてボートの中をさがしました。アーメドはふるえだし，じぶんのむねが大きく鳴るのがシデじいさんにきこえるのではないかとおそれました。もし女の人がまずしい人だったなら，彼はこんなことはしなかったといいきかせました。けれども女の人はお金持なのです。アーメドにとって，ゆびわはえものであり，洋服であり，住むところなのです。

女の人のさけび声で，船員が手すりのところまでかけつけてきました。船員は船になわではしごをかけました。そして彼ははしごずたいに下へおりて行き，ゆびわをさがしにくわわりました。アーメドに手つだってもらい板を取りはずしてすみずみまでさがしました。

「なぜあなたがたはみなとのけいさつかんを呼んであの少年や老人をしらべないのですか」と水夫が船員にたずねた。

シデじいさんは力づよくかたをゆすり，「わしは決してぬすまないよ」とじしんにみちて言いました。「彼はしんらいできる人さ」と船員は答え，このようにいいました。

「モロッコ人だからね。」

「あの男の子はどうかな？」と船員はいいました。

「あの子もだいじょうぶだよ」とシデじいさんは言いました。

気持がらくになるどころか，むねの上に石がおちたような気持になりました。シデじいさんは，彼のことをあいしてはいませんでしたが，しんようはしていました。とつぜん，アーメドはそのしんらいをうらぎることは出来ないことを知りました。たとえそれがダイヤモンドであっても。アーメドは船員とシデじいさんに背中をむけると，大きな声をだしてひざをつきました。立ちあがった時，ゆびわを手にもっていました。船員はゆびわを，ひったくるようにして，いそいではしごをのぼって行きました。

アーメドがいちもくさんにボートをこぎだした時に，「おまちなさい」と女の人はさけびました。けれどもアーメドはきこえないふりをしました。

「どうして，船にもどらなかったのかね」とじいさんはボートがかいがん近くにきたときにききました。

「女の人はお前にほうびを上げたかったのだ」

「ぼくはゆびわをもっていたのです。ぼくはこれを売るつもりでした。」まるでことばがアーメドの心をかきむしるようでした。

「アーメド，わしはよく知っているよ。お金がおちた時にゆびわを見たのだ」

「どうしてぼくをしらべるようにいわなかったのですか」とアーメドはさけびました。

「お前がきっと，ゆびわを返してくれると思っていたんだよ。それに，わしはじぶんをせめているのじゃ。お前の目をみていると何を求めているのかわかるよ。おまえにひつようなあいじょうをしめしたらよかったのだよ。だけどわしはおそれていたのだよ。」

「こわかったのですか。このぼくを？」アーメドはたずねました。

「アーメド，わしはとしをとっている。それにやっかいなことはきらいだし，ようしのまごのせきにんをもちたくなかったのだよ。わしらの家についたら，このことについてもっとゆっくりはなしあおう。」

アーメドはすばやく見上げて，じぶんがききちがえたのではないかとおそれました。

「そうだよ，この家にお前と住みたいのだ，アーメド。わしもかぞくがほしいのだ」年とったシデじいさんの目はかがやいていました。

「けれど，いつも気楽であるとはかぎらないよ，わしは年をとっていて，時々きげんが悪いからそんな時は，わしよりダイヤモンドの方がいいと思うだろうよ。」

アーメドは大声をあげて笑いました。

「けっしてそんなことはありません。」と，さけびました。

世にありながら世のものとならず

ジョン・H・バンデンバーグ監督

利己主義，暴力，無秩序なモラルが，人々の行ないを動かす主要な動機となってくるにつれ，多くの人はそのような環境から逃げ出したいと思うようになる。そしてある者は民の大半が教会員である地域を捜すのである。

しかし，我々がある社会の中で孤立し，世の悪影響を免れる状態にも限度のあることが，次第に明らかにされてきている。そのため，自由気ままな神を忘れた官能的な世界の中で今大人になろうとする若者は，もう一度考え方を正す必要があろう。

その第1の点は，おそらくものの見方である。予言者ジョセフ・スミスは教義と聖約127章2節に述べている，「わが身の越えざるべからざる危難と言わば，人の猜忌と忿怒とが一生を通ずるわが日常のさだめなるが故に，われにとりては最も小さきものにしか見えず。されば善きことのためか悪しきことのためかは人の呼ぶに任せむ，もしこのこと創世の前より神の定めたまいしところにあらずとせばその故ついに不可解なるが如し。……」

予言者はこのさだめ，すなわちこの世におけるこの使命が福音を受けいれ神の御国の建設のために全力を尽して働くすべての人にも同様にあてはまると信じていた。

「世の住民に宣べ伝える召しを持つあらゆる人は，創世の前より天上の大会議においてその目的のために任命されていた。」（予言者ジョセフ・スミスの教え，英文P.365）

この世でのそのような自分の使命を理解する時に，教会の若人はいずこにいても誇りをもって王国建設の一翼をになうはずである。歴史始まってこのかた，悪との戦いという問題をかかえずにいられた時代はない。罪悪は，特に伝達交流の手段が容易な現代に，人口の少ない地域にも入り込んできた。それらの地域はここ2，3年の間にめだっている。

結局は，よくない環境から悪い影響を受けないためには，強い性格と福音の原則への従順さが必要とされるのである。

真の意味での性格の強さとは，気高い目的に献身するところから生じる。教会の若人は，1842年9月，予言者ジョセフが記した書簡にあらわされたこの使命を与えられているのである。「……全くして欠くることなき完全なる合一とまた神権の時代と，鍵と，権能と，光栄との固き結合出来て，……今やまさに先触れを始めんとする時満ちたる神権の時代の先駆をなすに必要なればなり。……」（教義と聖約128：18）

ダニエルは我々の時代に福音が全地に満ちるのを見た。そのようにしてやがて地上の諸王国がキリストの王国に座をあけ渡すのである。ただ，福音を受け入れ，それに従う人々のみがそれを実現させることができる。人の生活は，型通りの説教よりはるかに力あるものである。世に生活する若人は，世をおおう暗闇に反対する霊の光明となることにより，大きな満足を感じることができるであろう。

教会には，若い人々が混乱と失望の世の中にありながらもしっかりと錨をおろすことができるように，いろいろなプログラムが備えられている。アロン神権プログラムは，指導者になるための訓練，福音の勉強，さらに若い人でも教会のために働くことのできる奉仕の機会を提供している。相互発達協会には，社交，文化，運動，スカウティング活動等のプログラムが整っている。若い男女のための個人業績達成プログラムでは，世の悪影響に抗する防壁としてたてた目標が実行される。

全世界各地で，日曜日毎に日曜学校で福音が教えられている。

教会の青年男女はこれらのプログラムに助けられ，聖霊による証に支えられて，「世にありながら世のものとならない」ことができ，「全くして欠くることなき完全なる合一とまた神権の時代と，鍵と，権能と，光栄との固き結合出来て」，神聖な使命を実践することができるのである。

家族をより強く

十二使徒評議員
エズラ・タフト・ベンソン長老

ひとつの民として，我々は尽くすべき忠誠を神と，家族と，国家に対して持っている。きょう私は家族を強めるようにと皆様に申しあげたい。

「救いは一個の家族として受けるものであり，……家族の絆は今も永世にもわたって最も大切なものである」と言われてきた。

教会は実に家族を助けるために造られたのであり，教会がその使命を遂行したのちにさえ，なお日の栄の族長制度は続くのである。それゆえ，ジョセフ・F・スミス大管長は次のように述べた。

「立派な父親，立派な母親になることは，立派な将軍，立派な政治家になることよりも偉大である。」またマッケイ大管長も述べている，「家庭より仕事や娯楽に重きを置く時，その瞬間に，彼は魂の低化への階段を歩み始める」。

ほんの昨日，ハロルド・B・リー副管長は「教会は，家庭がその神聖な使命を遂行するよう，さらに多くの援助をなすべきである」と語った。

そしてジョセフ・フィールディング・スミス大管長は，教会員を義務の道や義の道からはずれさせようとする誘惑や落し穴や危険がこのように多く存在する時代は，教会の歴史始まって以来なかった」と記し，己に心を留めよ「Take Heed to Yourselves」（英文P.127）さらに「この世界はより良く成長してはいない。……悪が増しつつあるのである」と述べている。（同上P.207）

悪魔がこのように組織的に強大になったことはかってなく，今日の時代ほどに，悪魔に仕える強力な使者たちが数多い時代もなかった。我々は家庭と家族を強化するために，なし得るすべてのことを実行しなくてはならない。

悪魔はこのことを知っているのである。「真理，徳，克己，教育の価値，正直な働き，人生の目的と祝福などを子供が人生から学び始める最初の場は家庭であり，それらのことを最もよく学び得る場は家庭であります。子供を教え育てる場として，家庭に代わるものはありません。どんな成功も，家庭における失敗を償うことはできません。」（デビド・O・マッケイ大管長，「家庭の夕べテキスト」1969—70，P111）。

今日，家庭や家族の崩壊は増大の一途をたどり，悪魔は巧みに働いて父親を家庭の長たる座からひきおろし，子供たちの間には反逆をまきおこしている。モルモン経はこの状態を，「わが民は小児にしいたげられ，女に治められる」と記し，次にこう述べている。その言葉は，産児制限や堕胎を促進する政治家たちのことを考える時に，重大な意味を持つのである。「ああわが民よ，汝らを導く者たちは汝らを誤たせ汝らの道を破る」と。（Ⅱ ニーファイ13：12）私は真心から真剣に姉妹たちに警告したい。堕胎を行ない，将来与えられるべき健康な子供を自ら妨ぐような手術をする人々は，自分の昇栄と，神の王国に入る特権とを危険にさらしているのである。

両親には子供を正しく育てる直接の責任がある。この責任は親戚，友人，隣人，学校，教会あるいは国家などに安心してまかせられるべきものではない。

J・ルーベン・クラーク，Jr，副管長は述べている。「私はあなた方両親にお願いする。子供たちについては何事でも当然だと考えないように。彼らの多くはもちろん善良である。しかし我々のうちには，彼らが真理と義の道からそれ始める時に気づかない者がいる。毎日毎時間，気をつけていなさい。心使いや世話を怠ってはならな

い。福音の精神，神権の精神によって親切に治めなさい。子供たちを正しい道に従わせたいなら，そのようにして治めなさい」。なんでも許す親は問題である。

私はやぐらの上のひとりの見物人として，若者を誤って導き，家族の絆を破るそのおもな原因が，我々の持つ教育制度にあると警告したい。ジョセフ・F・スミス大管長は，教会員をおびやかす3大事のひとつに，間違った教育思想をあげた。教会が若い人々はインスティチュートなどの付属している家に近い学校で学ぶよう勧めているのには，少なからぬ理由がある。そのことにより，両親は子供の近くにいることができる。両親が子供についてよく知り，気をつけているならば，昨年マッケイ大管長が忠告したように，シグモンド・フロイドやチャールズ・ダーウィン，ジョン・デューイ，カール・マルクス，ジョン・ケインズなどの人々の誤りをしっかりと見抜く助けができるのである。

現在，大学教育を充分に受けないことよりもはるかに悪いことが起きている。実際，子供たちが大学に出席している間に，道徳不在に傾いた管理者たる人々により最悪の事態が引き起こされることがしばしばあるのである。

カール・G・メーザーは言った。「わが子を腐敗した教師の手に渡して堕落させるよりは，むしろ天然痘やチフスやコレラや不治の病い，死の病いに引き渡したい。偉大ではあるが不純な哲学者よりも，無知ではあるが心の清い教師のもとで教えをうける機会のある方がはるかによいことである。」

年々多くの親たちが，子供のために職業教育，通信課程，家事教育施設の必要なことを実感してきている。

現在，ブリガム・ヤング大学は合衆国内最大規模を誇る私学である。ブリガム・ヤング大学は近隣，遠方の親たちからこれまでになく大きな期待を寄せられる存在となった。

あなた方の子供たちがこのような学校にたとえ入ろうと入るまいと，大切なことは子供の身近にいて毎日の様子に心をくばり，出来ることなら彼らが学校でどのようなことを学び，どんな教科書を読んでいるかを知ることである。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は，知っている限りにおいてどの公立学校にも，無意味な内容を含む「学問」について教える教科書が使われていると語った。（己に心を留めよ　英文 P.32）

私は，定期的に子供たちが教わっていることの内容を調べているという立派な父親を知っているが，彼は子供たちが誤った教えを教えられたとわかった時には，子供と一緒になって真理を追求している。子供たちが試験の際にその誤った教えを書かねばならない時には，ジョセフ・フィールディング・スミス大管長が勧めているように，「教師はこのように言っている」とか「このように教わった」とか「教科書にこう述べてある」と付け加えて答えを書くことができよう。

最近数名の親たちが息子の学校の校長にあてた公開状を新聞に投稿した。その一部をあげてみよう。

「ここに以下のことを告知申しあげます。以下に署名のある両親は，息子が性教育，人間の生物学的進歩，心構え，自覚，個人生活，家族生活，集団療法，感性訓練，自己批判，およびその類の教育を署名人の許可と同意なしに教えられることを禁止いたします。

私共は学校当局の干渉と反対に犯されることなく両親としての権限を行使して，子供に道徳と性教育を施し，導きたいと思う次第であります。

私共の息子は，道徳標準を低下させ個人の責任をあいまいにし，集団の思想に従わされる方向に行く感性訓練，集団療法，自己批判など（それらは広く世の中で用いられているものだが）を教えられてきました。

クラスにおいて前述の事柄やこの公開状を無視したことが行なわれた場合には，ただちに教室を出るようにと息子に教えております。」

主は末の世にサタンが家族の絆を絶とうとすることを知っておられた。法廷から好色文学を許す判定が出ると知っておられた。

神が50年以上も昔に予言者に霊感を与え，毎週行なう家庭の夕べのプログラムをたてられたことを，我々はいかに感謝すべきであろうか。それは両親が子供を教えるという責任の最たる機会である。忠実な教会員たちは週に一度のみならず家庭の夕べを行ない，みたまの命ずるまま，家庭の夕べのテキストに追加削除して教えている。

教会の（毎週一晩行なう）家庭の夕べプログラムは，家庭を守り強めるこ

とを目的としてたてられた，父親母親が家で息子娘たちと一緒にすごす時間である。祈り，讃美歌その他の歌を歌い，聖典を読み，家庭内の話題について語り，才能を発表し，福音の原則を教え，ゲームやリフレッシュメントを出す。

ここに，毎週家庭の夕べを行なう人々に約束されている祝福をあげよう。

「聖徒たちがこの勧告に従うならば大きな祝福がもたらされることを約束する。家庭の愛と両親に対する従順が増し，イスラエルの若人の心に信仰が強まり，彼らは直面する誘惑や悪い影響と戦う力を得るのである。」（大管長会，1915年4月25日インプルーヴメント・エラ18巻 P.734）

さて，今日の若者はどのような娯楽を楽しむことができるであろうか。あなたはテレビ，ラジオ，雑誌，レコードなどにより，知らず知らずに家庭におけるあなたの権利を奪われてはいないだろうか。ロックミュージックの大多数は，両親が知らない二重の意味を持つ言葉を用い，故意に不道徳や麻酔剤，革命，無神論，虚無主義へ人を駆りたてるものである。

よく知っている親は，風紀を乱す耳ざわりで騒々しいロックミュージックが感覚を麻痺させ，感受性を鈍くし，野蛮さを呼び起こす野性の音楽だと，子供に警告することができる。

J・ルーベン・クラーク，Jr，副管長はこのように言った。「現代芸術，文学，音楽，および演劇の実に多くが風俗を乱すものだということを，少し考えていただきたい。まったく，……あなた方の聞く音楽が，ジャングルのタムタムとどのように違うかを私は知らないが，そう違ったものではないと思う。……

あなた方はこれらのことに気をつけなくてはならない。それらはみな子供たちに影響を及ぼすのである。あなた方の家庭生活をできる限り天国に近いものとしなさい。」（扶助協会誌1952年12月号 P.798）

若者の指導者たち，あなたは我々の標準を高くかかげているだろうか。低俗な分子にへつらって教会内に偽りや悪の存在を許していないだろうか。文化ホールで行なわれているダンスや音楽は品があり，美しく，ほむべき，よき聞こえあるものであろうか。短いスカート，大声，スポットライトの見られる暗い場となり，現代のソドムの様相を示してはいないだろうか。

若人の指導者は，若き日のジョン・ウェスレーが母親から受けた次の標準を受け入れているだろうか。彼女の正しい忠告に耳を傾けなさい。

「あなたは楽しみごとの善悪を見分けなさい。そして次のことをきまりとしなさい。理性を弱め，良心をくもらせ，神さまについての思いをあいまいにし，霊的なことを喜ばないようなことは何であっても，そして，心よりも体の方を重要視するものは何であっても，あなたにとって悪いものです。それがそのもの自体いかに無害に見えようとも。」

我々はモロナイの警告のように「神の聖い教会を汚していないだろうか」（モルモン8：38）両親や神権者が家族を神のみもとへ導こうと努力する時に，教会の補助組織はその助けとなるものである。我々の内には，いわゆる「平和運動」の象徴である破れ十字架や反キリストのしるしを身につけている者はいないだろうか。

「わたしの民は知識がないために滅ぼされる」とホセアはなげいた。（ホセア4：6）現在，ある親たちは知識を得て，立ちあがり，子供たちに教えるということを拒むために，子供たちを精神的，外的にだんだん悪くしていく状態にある。もしも我々が善悪を知って神のようになれるなら，我々は何が我々をだめにするのか，どのようにしたらそれを避けられるのか，そのために何ができるのかをよく知るに違いない。

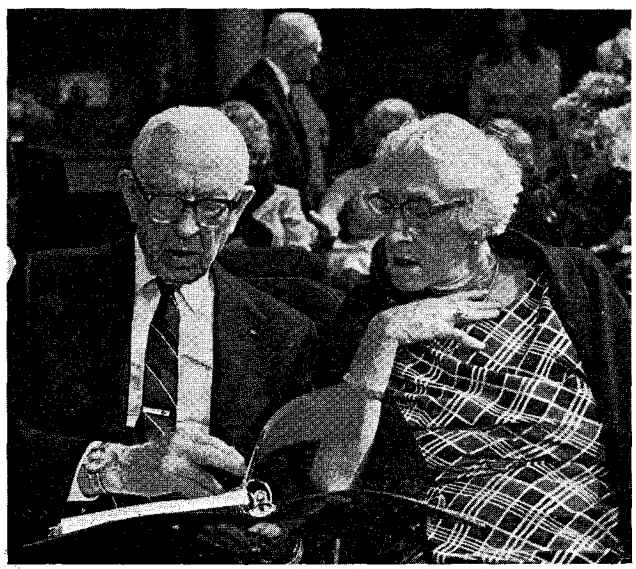
今こそ，我々父親の心が子に向けられ，子の心が我々父親に向けられる時である。さもなくば，我々は呪いをもって撃たれるのである。妻たちが家をあとにして外で働く時，子供たちの受けるべき祝福は減り，離婚の種がまかれることも多い。働いている母親たちは，子供が必要としているものは金よりも母親であることを，よく認識しなくてはならない。

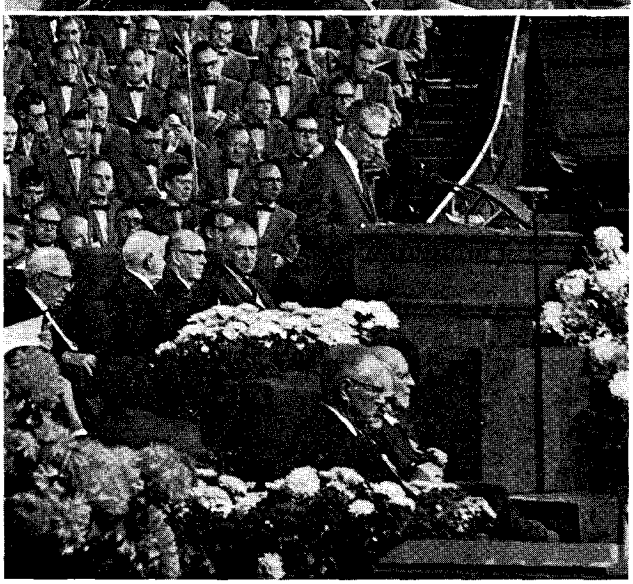
世の有様が悪い方に進展していくにつれ，家族が義のもとに集まり，団結することはむずかしくなっていく。ある人は「現代では，人を家庭から引き離すものが大変多くなっています。私たちは多すぎる活動や関心事にあまりにも多くの時間と注意を払いすぎて，家族や子供たち，主から愛し，育て，教え助けるようにと与えられた人たち

のことをおろそかにしてはいないかどうか，真剣に考えなくてはなりません」と言った。

そうである。我々は家庭を強くしようではないか。朝夕の家族の祈り，個人の祈りは家庭に主の祝福を招くものである。食事時は家族が順番に聖典，特にモルモン経を読むなどして，一日を振り返り，体を養うのみならず霊をも養うすばらしい時間である。夜は父親にとって，子供たち全員の枕もとへ行き，語り合い，質問に答え，愛していることを告げる忙しい時間である。そのような家庭には，「世代の相違」などあり得るはずがない。この誤った言葉は，家庭と家族を弱くする悪魔のもうひとつの武器である。両親を敬う子供たちと子供たちを愛する両親は，家庭を安全な天国，小さな天国とすることができる。

こうかつな悪魔のはかりごとを防ぎ主の清い道に従うことにより，神は我々を祝福され我々は家族を強くすることができる。そのようにして，我々はしかるべき時が来たら，日の栄の家庭で天の御父に向かい，私たちは，父，母，姉，弟など愛しあう全員がここにいますと報告できるのである。すべての椅子が満たされ，我々全員は家に帰っていると。イエス・キリストのみ名によって。アーメン。





我々を頼りとできるだろうか

七十人最高評議員
ローレン・C・ダン長老

ある森林監視員が，国立公園へ野生動物の生態を撮りにやってきたひとりの旅行者について話したことを，私は今でも忘れない。キャンプ地からそう遠くない所で，彼はめざすふたごの子熊がじゃれたり，餌をさがしたりしてごみ捨て場をひっかきまわしているのを発見した。カメラをつかんで飛び出した彼は，いろいろな角度から写真を撮りまくった。その時彼は夢中だったせいか，森の中で子熊がいる時には母熊も必ず近くにいるということをすっかり忘れてしまっていた。

遊んでいる子熊のクローズアップ写真を撮ろうと移動するうちに，彼は不注意にもちょうど少し離れた茂みにいる母熊と子熊の間に入ってしまったのである。母熊は子熊を守ろうと突進したが，幸いその様子を見てとった通行人が大声で叫んだため，旅行者は軽業師に劣らぬ敏捷さを発揮してごみ穴を飛び出し，惨事を免かれた。

我々は動物が子供を守るためにどんな残虐行為をするかをよく聞くが，そのような話はたいていの場合，説明のつかない理由で自分の子供を見捨てる親たちに比較して語られる。そのような行ないは非難されるべきであるが，とはいえ，我々の住む今の時代には赤ん坊をよその戸口に置きざりにすると同様に，あるいはそれ以上に悪いことが存在するのである。

親たちが信じて家庭の中心としている道徳や行ないのきまりというものを子供が無視し，彼らの行ないを正し，より良くしようと思って行なう親の努力にことごとく子供が反抗する時に，親たちがいかに彼を見放そうとしているかについてお話しよう。

戸口に置き去りにされた子は，しかるべき施設に預けられ，そのほとんどは子供を欲しがっている家庭に引き取られ，実の子と同じように愛され，育てられるであろう。

悪い道に走ったり，両親の努力に反抗したりするからという理由で実の親から見捨てられる子供は，それよりはるかに困った状態にある。彼らが困難な時期を迎える時，親以外にだれが彼らを心にかけるであろうか。

衆知の如く，現代の悲劇は多くの若者が家を離れてさまよい，問題の渦中に入ったり，社会に問題をひきおこすということである。永遠の御父も彼らを息子娘として心配しておられることを，我々は知っているだろうか。我々が失われた羊の話を理解するならば，安全な群の中にいない彼らのことをもっと重要なこととして考えるに違いない。

ある若者たちがなぜ反抗し，放浪し始めるかについて，社会には千にも数えられるほどの理由がある。しかし私は多くの場合，その若者を生み，育てる途中で彼らをひとりにしておくか，ないがしろにするか，人格形成に必要な世話を怠ったかして結局彼らを見捨ててしまった両親に，理由のすべてが返ってくると考えざるを得ない。

先日私のところに清潔な身なりをした美しい女性がやってきた。しかし彼女の語った話は清いとか美しいとかいう言葉とおよそかけ離れたものであった。

彼女は十代の初め頃から麻酔剤にふけり出し，それがあまりにもひどくなったため，一時は家を離れてグループからグループへ渡り歩いたこともあった。いわゆるヒッピーとなり，ほとんどの時間を，薬に酔っていた。

その時彼女はこのように話してくれたのである。「とても不思議だったのですが，そんな時も父は私を見放さず私が両親の心を痛めていると知りつつ家に帰る時には，いつも父の愛を感じることができました。父は私のしたことをみな非難したのですが，私自身を非難したことがありませんでした。」

この女性は，ある晩よくない旅行をしたと話してくれた。たしかそれを「気まぐれ旅行」と言っていたと思う。それはおそろしい経験で，家に帰ってからその夜中まるで子供が悪夢に

うなされた時のように，両親にベットのわきにつきそってもらったと言う。彼女は父親から祝福されて，ようやく心身の苦痛が和らぎ，落着きを取り戻した。

それがこの女性の人生の曲りかどとなった。いつも悪いと知りながら反抗せずにいられなかった，と彼女は語った。少しずつ生活を元に戻し，今はまだ進むべき道をしっかりとは持たないながら，道を作っている。

彼女には決して彼女を見捨てない父親というものがあった。

ここで，私は教会員ではない母親と18歳の息子の話を思い出す。母親の話を紹介しよう。

「息子は3年ほど前に新しい友だちを持ち，それをきっかけに『麻酔剤』を飲むようになりました。私はけんめいになってその友だちがどんな子かということを教えさとし，『麻酔剤など飲むものではない』と言いましたが，言うことを聞きませんでした。家を飛び出てからは，もう私の手の及ぶはずがありません。

だめという言葉がひんぱんに出るようになるにつれ，息子の反抗も手に負えなくなりました。……ある晩，息子は夕食の時に『ぼくはこれから家のきまりに従わないことにしたからね』と言い出しました。彼はその時までにおよそ3カ月かかって必要なお金をためており，家を出ると言うのでした。息子は『そうしたら言いたいことを言って，飲みたいものを飲むんだ』と言いました。」

その時母親はテーブルから立ち上がり，ホールに行って引き返してきてそして，「あなたのために新聞をとっておいたわ。あなたがきまりに従って生活しようが，どこか他に住む所をみつけようが，3か月かけなくても3日間で決まりますよ」と言った。

息子はびっくりしたが，翌日職を決めて家を出ていった。しかし家を離れたとはいえ，家族の関係を絶ったわけではない。母親はこう語った。「私は息子にドアがいつも開かれていることを知らせました。息子のアパートを見に行き，新しい仕事に気をつけ，引越しが終わった時には食事に招待しました。そのようにして，息子は家に来ることが敗北ではなく，新たな決定なのだと知ったのです。

息子はいくつも職を変えました。レストランでも働きましたが，自分の問題を解決しようとしているうちに他の人を援助する立場に変っていき，とうとう最後には，家出人や麻薬問題に関係した人々を世話する事業所につとめることになりました。

息子は時々家へ遊びに来ました。私は『どこにいるの』とか『そろそろ帰って来ない』とか聞いていたのですがある日息子は家に戻ると決心してくれました。それまでの職場を麻酔剤のことでやめさせられたのでした。」

それから，母親は大切なことを語ってくれた。「息子はいくつかの誤ちを犯し，しなくてもよかったはずの苦しみを経験しました。けれど，私は彼が世の中の悪に抵抗して，良いもの，美しいものを受け入れるようになったと思うのですよ。……子供というものは良い子になる権利と悪い子になる権利と，それから自分の両親がどんな場合にも自分と共にいてくれるということを知る権利を持っていると思います」（クリスチャン・サイエンス・モニター，1970年9月9日）

おそらく，数か月前の出来事を皆さんは覚えておいでのことと思う。ほとんどの新聞に載ったことである。ある大都市の超高速道路の分岐点で，鉄柵にしがみついていた少女が発見された。警官が召集され，少女は救い出されたが，その子の話は聞くもあわれなものである。

彼女をそこへ置き去りにしたのは何と，その子の両親であった。両親は，「ここにしがみついておいで。どんなことがあっても離れてはいけないよ」と言って，彼女を残したまま車で走り去ったという。新聞記事はその有様を克明に伝えていた。小さな少女が目に涙をためながら歯をくいしばり，車や巨大なトラックがビュンビュンと左右を往来する真中で，父親がしがみついていなさいと言ったとおりにしっかりと柵にしがみついているのを思い浮べることができるであろう。けなげにがまんをして，引き返すはずもない父母を待っていた姿を。

両親の方々，どのような困難に会おうとも，たとえ何が子供たちをそこへ連れて行ったにしても，決して子供たちを人生の暗やみや危険な道に置き去りにしないようにしていただきたい。彼らが目覚める時，それはつらく長い道かもしれない。しかし，彼らが我々を必要としているとわかった時に，彼らを失望させることのないよう，心より祈るものである。

「……まだ遠く離れていたのに，父は彼をみとめ，哀れに思って走り寄りその首をだいて接吻した。むすこは父に言った。『父よ，わたしは天に対しても，あなたにむかっても，罪を犯しました。もうあなたのむすこと呼ばれる資格はありません』。しかし父は僕たちに言いつけた，『さあ，早く，最上の着物を出してきてこの子に着せ，指輪を手にはめ，はきものを足にはかせなさい。……

このむすこが死んでいたのに生き返り，いなくなっていたのに見つかったのだから』（ルカ15：20—22，24）

イエス・キリストのみ名によって。アーメン。

家族と柵

十二使徒評議員会
ボイド・K・パッカー長老

この安息日の朝，私は新たな責任をもってこの壇上にあがり，今までにも増して主のみたまの導きを願い，ここにおられる皆様や耳を傾ける人々の信仰と祈りに関心を持つものである。私は親である方々に対して，わがままな道に迷った子供たちについてお話したいと思う。

先日，息子のことで深刻な問題をかかえたひとりの父親が，「いつ息子が出かけるか，またどこにいるか私たちは知りません。でも息子がここにいる時には，いつもきらわれ者です」と言っているのを耳にした。私がお話したいのはその心痛についてである。大勢の皆様を前にしているため足がすくむような思いがする。

息子や娘がどこにどうしているのかだれか知ってはいないだろうかと，心配し，祈っている母親を見たことはないという人はほとんどいないであろう。また，日中から仕事に身が入らず「私たちの何が悪かったのだろう。子供を呼び戻すにはどうしたらよいのだろう」と考えてばかりいる父親をよく目にすることであろう。

一生懸命に努力している立派な両親さえ，その心痛を味わっている。多くの両親があらゆる手を尽して子供たちを守ろうと努めてきたが，今子供たちは迷いの道に入ってしまっている。それは家庭と家族とを困難な事態が見舞っているからである。次の言葉について考えてみていただきたい。

不信心
裸体
不道徳
離婚
好色文学
麻薬
暴力
性倒錯

これらの言葉はここ数年のうちにまったく新しい意味を与えてきた。

使徒パウロはテモテに予言している。

「しかし，このことは知っておかねばならない。終りの時には，苦難の時代が来る。その時，人々は自分を愛する者，金を愛するもの，大言壮語する者，高慢な者，神をそしる者，親にさからう者……となるであろう」。（Ⅱテモテ３：１－２）

この聖句について語るべきことはたくさんあるが，「親にさからう者」という箇所が特に目をひく。

私たちは苦しみを呼び起こすような話題に触れたくないし，失敗を責めたいとも思わない。しかしあなたは誤っており，それが心痛の元となっているのである。誤ちを終わらせたいならば，どのようにつらくともその問題を直視しなくてはならない。

２，３年前，私は朝の少しの時間，体を悪くして病院で検査を続けている母親に呼ばれた。

母は「家へ帰ります。こんな検査はがまんできませんわ。今すぐに連れて帰っておくれ。もう一日もいたくありません」と言った。

私は母に言った。「でもお母さん，検査は受けなくてはなりません。あなたは癌かもしれないという理由がはっきりしているのですから，もしそうだったら，どり返しがつかないのですよ。」

そう言ったのである。口にするのを避け，かげでひそひそと話すようにして，母には決して知らせまいとしていたのに，言ってしまった。

母は長いこと黙ってベッドにすわっていたが，最後に「そうかい，もしそうだったらそれでしょうがないんだから，私は病気とたたかいますよ」と言った。母はかんしゃくも起こさず，病気とたたかい，ついに勝った。

母が病とのたたかいに負けただろうと考える人もあるであろうが，彼女は立派にそのたたかいを勝ち抜いた。勝利は彼女が苦しい現実をしっかりみつめた時に保証されたのである。そこから勇気がわいたのである。

両親の方々，まず最初に問題の中で一番苦しい箇所について考えることはできるであろうか。息子や娘を非難したい時に，子供を少しの間だけ変えよ

うとはせずに，自分自身のことを振りかえることがなぜできないのであろうか。子供ではなく，あなたがまず変らなくてはならないのである。

あなたの行ないがひとつの原因である時，あなたはたとえ正しいと思ってしたことでも，それまでの行ないをやめ，子供があるふるまいをやめるだろうなどと期待することもやめなくてはならない。

そのことである。口にするのを避け道に迷った子のことに非常な気をつかい，人を責め，両親と仲良くできるように，さまざまな手だてを尽したあとに，それをやってみるのである。

今すぐ考えてみなくてはならないのは，子供のことではなく，あなたのことである。

さて，もしそのことを受け入れて下さるのなら，親であるあなたに具体的な方法をお話したいと思う。この提案はやさしいものではないということをつけ加えておく。問題が重大であるだけに方法もそれ相当に困難だからである。飲んだとたんに直るというような薬は決してない。

また，もし信仰と教会の教えを無視しながら解決したいと思う人があるなら，その解決法は決してみつからないと申しあげる。教会の原則や教えのことを話し，聖句を引用するのは，興味深いことではないだろうか。そして多くの人がそのような話を喜ぶであろう。しかし，私たちがあなたの家族と問題について話し合い，解決方法を提案する時に，あなたは必ず深い関心を持たれる。

他のことを語らずしてあることについて話し合えはしないこと，また問題の解決も期待できないことを知っていただきたい。両親が神がおられることを知り，私たちがその子供であることを知れば，問題に対して次のように対処することができ，やがて勝利をおさめることができるであろう。

あなたが無力でも，神はそうでなく
あなたが迷っても，神は迷わず
あなたが次になすべきことを知らず
　とも，神は知っておられる
奇跡が起こらねばというのか
では奇跡が必要というのに
　なぜそれが起こらぬのか
まずそれをはばむ道から
　あなたが抜け出なさい

ジョセフ・マリンズの「柵か救急車か」という詩があるが，，そこには，崖の下に救急隊を送る苦労が述べられ結論として，結果をなおすよりもその結果を招いた原因を防ぐことにこそもっと注意が必要だという昔の賢人の言葉が述べられている。彼は崖に柵を作ることを提案し，さらにその考えを若い人々に応用している。年寄りを改心させるより若者を導くことの方がよいこと，堕落した人を救うことはよいことだが，堕落から人々を守る方がよいということを述べている。

私たちは免疫をつくって病気を防ぐ。あなたの受けている心痛もおそらく，ちょっとした方法で防げたはずのものに違いない。さいわい，予防のための手段が治療の手段でもある。すなわち，事態が進行している今でも，予防が一番の治療となるのである。

ここで，子供たちを守るにも，迷っている子をいやすにも役立つ実際的で有効な方法をお話しよう。

私が今手に持っているものは家庭の夕べの本である。シリーズの7版目で世界の17カ国語に訳されている。お読みになれば，これが新約聖書を基として書かれていることに気づかれると思う。テーマは自由意志であり，新約聖書の時代からレッスンがとられていると言っても内容まで昔に戻るわけではない。それは時代を越え，あなた自身にも，身のまわりのどこにでも見られる内容を含んでいる。

カラーがふんだんに使用され，どの年代の子にも合うたくさんの役に立つ活動が載っている。

たとえば，ここには（P.39）クロスワード・パズルがあり，またここには（P.23）きれいなゲームが載っている。切りとってボール紙にはって，使用できる。あなたが「天の宝」と「この世的な楽しみ」の間を動いていくわけである。

ここには「我が家の成り立ち」（P.51）というレッスンがあり，「今度は，あなた方がどのようにして出会い，恋をして結婚したかを子供たちに話す時です。2人で一緒に話すようにして下さい。絵を使ったり，大切にしまっておいた結婚衣裳や案内状，結婚式の写真などの記念品で説明して下さい。いつの日か孫にも聞かせられるよう，あなた方ふたりの説明をテープにとっておくのも良い考えです」と書かれている。

また，他にレッスンの題をあげると「家庭管理」，「礼拝」，「清い言葉使い」，「家庭経済」，「両親，神聖なる機会」，「権能を尊ぶ」，「ユーモアの価値」，「新しい地へ行こうとしているあなた」，「予期せぬ出来事が起きたら」，「救い主の誕生」などがある。

これは「自由を得させるもの」というレッスンであり，子供たちを導く警笛である。中には色ずりの証明書がはさまれており，「家族の人たちがやったことのないような活動を選ぶこと。証明書の形式をとった一枚の紙を封筒に入れて，家族に一枚ずつ渡す」，父親が「この証明書はあなたが家庭の夕べにおいて，ピアノを一曲弾くことを許可するものである」と書いてサインをすると書かれている。もちろん，その子はそれまでにピアノを習ったことがない。

子供の年令にあわせて他の証明書もできる。「逆立ちすること，逆立ちを

し，手で歩くこと，外国語を話すこと油絵を書くこと」など。さらに，家族の人たちができないと言ったらどうしてそれができないかを話し合う。そしてその話し合いの中から，能力を伸ばすためにはそれを支配している法則を学んで，その法則に従わなければならないことを知り，それに従うことにより自由へと導くようにする。

小さな子供たちのいる家族のためには，おもちゃの車をテーブルの上のどこでも，どんなふうにでも走らせてよいと言う。小さな子でもその結果を予想できるはずである。

このレッスンだけをとっても，またすべてのレッスンについても，子供と両親が仲良くなるための非常にためになる有効な方法が数多く載っている。

このプログラムは週に一回行なうように計画されている。全教会にわたってその日に指定された月曜日の晩，家族がいっしょに集まるのである。最近出た指示の中から少し引用しよう。

「全教会を通じ月曜の夜が一様に守られるよう，神殿活動，青少年体育活動，学生活動等も含め，神権と補助組織プログラムは，この決定に注意を払わなければならい。家族は教会の活動から自由になり，家庭の夕べで共につどうことができる。」（1970年9月神権会報）

生ける予言者は，このプログラムについて，両親が週に一度子供たちを集めて福音を教えるならば，そのような家庭の子供たちは決して道を誤ることがないと約束している。

教会外の方々も，また残念なことに教会内の大勢の方々も，たとえイエス・キリストの完全な福音と教会員たる資格と聖典とを受け入れずとも，どうかこのような本を手もとに一冊置くよう希望して止まない。それを手にすることはできるのである。理想的な家族を造りあげる「証明書」をあなたに差しあげたいと願う次第である。法則に従わずにそれができるはずはない。福音を持たずともこのようなプログラムを行なうことにより，あなたは，悲惨な病いに抵抗する免疫を子供に植えつける針と，その中にあって子供を守る血清とを手にすることができるのである。

両親の皆様，家族の霊的指導者としての責任を持っていたのは，あなたにとって過去のことであるかもしれない。現在の信念に確固たるものがないならば，どうぞ真理を求める勇気を持っていただきたい。

今，これまでになく立派なすばらしい若い世代の人々がいる。あなたは伝道の召しにつかえる若者を見たことがあるに違いない。過去に彼らをことわった方たち，どうぞ彼らを捜して下さい。彼らがたとえ小さな者でも，立派に生きる若者の姿をそこに見出すことであろう。何千何万の末日聖徒，彼らのような文字通りの聖徒がいるのである。

両親の皆様，私はあなたの心を希望で満たしたいと願っている。心痛をいだいている皆様，決してあきらめてはいけない。いかに暗くとも，いかに道が遠くとも，息子や娘がいかに人生の闇に落ちていても，決してあきらめてはならない。決して。

私は皆様の心に希望を満たしたいと心より願っている。

神が悲しみにひしがれた両親を祝福されるよう。子供を失うことほど苦しい思いはないが，その子供が帰ってくることほどに大きな喜びもない。

私は特別な証し人として聖任された十二使徒の一人として，証を述べたいと思う。神が生きておられ，イエスはキリストであることを知っている。

そして世は神の生きておられることを「見ようともせず，知ろうともしない」ことを。心悲しむ両親の皆様，「わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに帰って来る」との主の約束に心をとめていただきたい。（ヨハネ14：17—18）イエス・キリストのみ名によって。アーメン。

感謝の心をもって‥‥

大管長
ジョセフ・フィールディング・スミス

愛する兄弟姉妹，教会のこの画期的な大会を終わるにあたり，あなたがたの上に私の祝福を残したいと思う。

神権は人類を祝福する力であり，神権者はすべてその同胞を祝福する範囲内でそれを用いるよう期待されている。我々は聖霊に導かれるまま，義のうちにこの権能を用いるならば，この世にあっても，永遠の世にあっても，我々の行ないは主により認められるであろう。

神の聖徒の上に祝福のあらんことを，主を愛し戒めを守り主の御業に献身する人々に祝福のあらんことを霊的にも物質的にも聖徒を祝福し，正しく努力する時に繁栄があるように天父が聖徒に恵みを注ぎたもうよう祈る次第である。

私自身とあなたがたのためにも，主が我々に豊かに下したもうた恵みに心より感謝を捧げたいと思う。

我々は天父の力により自由の民としてたてられてきた。自然の美と恵みは我々のものであり，我々は従順によって真理を得，目にもうるわしい生活をすることができるのである。それはまたこの人生に平安と喜びをもたらし，永遠の天国で神と共に満ち足りた生活をすることを約束してくれる。

永遠の父なる神よ，汝の聖徒らとこの末日に汝の福音のもとに集まった散乱されしイスラエルのすえに汝のみたまをより豊かに下したまえ。

我々が一つの民として汝に仕え，戒めを守り，いたるところにいる汝の子らに真理と義のおとずれを携え行かんとの，望みを持つを汝は知りたまえり。

それゆえに我々は世界各地に宣教師を遣せり。わが息子たちは長年，伝道地にあり。その一人は今も外国にありて，数年間伝道の業をなせり。

我々は偉大なる真理と光明を注ぎたまいし汝に感謝し奉る。それらはこの大会において汝の僕らの口より語られ，聖霊の力によりあらゆる地の正直なる人々の心にもたらされたり。

日ごとの糧を与えたまい，霊的に強められしことを感謝し奉る。今や我々は再新され，汝の使者として出で行く覚悟ができ，我々の能力の限りを尽くして汝の求めたもうことを行なわんと欲するなり。

おお天父なる神よ，汝が我々に与えたまいしあらゆるものの故に感謝し奉る。我々はあらゆることに汝の御手を感謝し，汝の目的なる成功と勝利とが得られんことを祈る。

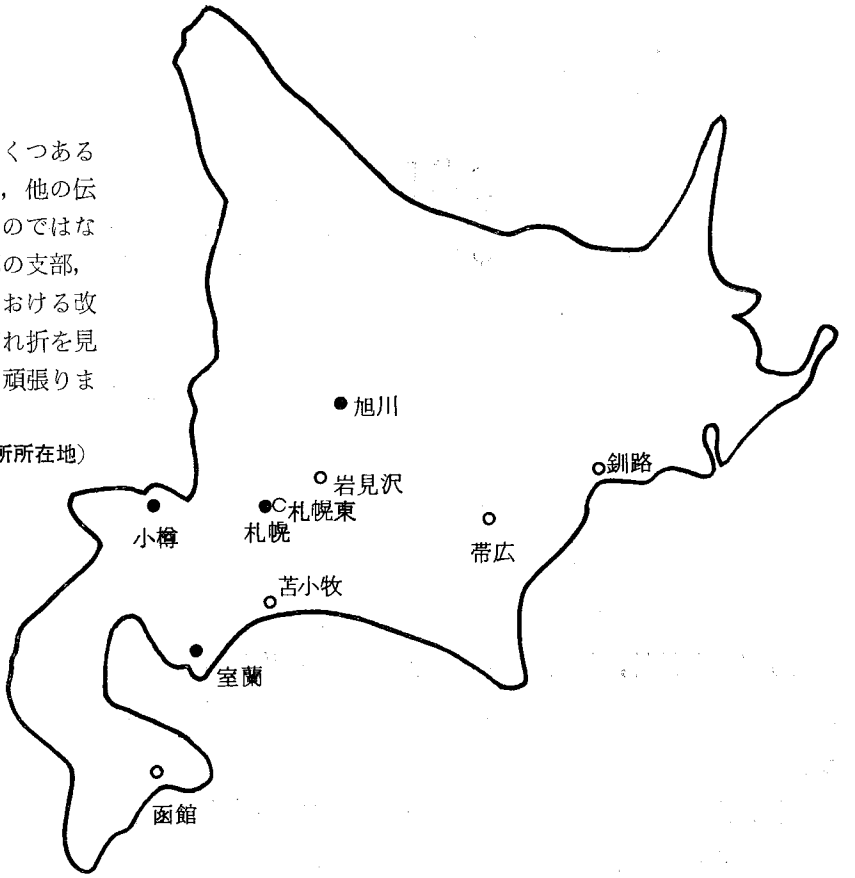
汝がいにしえに語りしままに今日も語りたもうことを知り，我々は汝の御手のうちに汝のみ言葉を世に伝える僕であり，我々のよき業を見て世の人々が汝の栄光に導かれんために，我々が世に光を輝かす僕であることを感謝申しあげる。今も永世にもすべての誉と栄えとを汝の聖なる御名の上に帰し奉る。主イエス・キリストの御名により，アーメン。

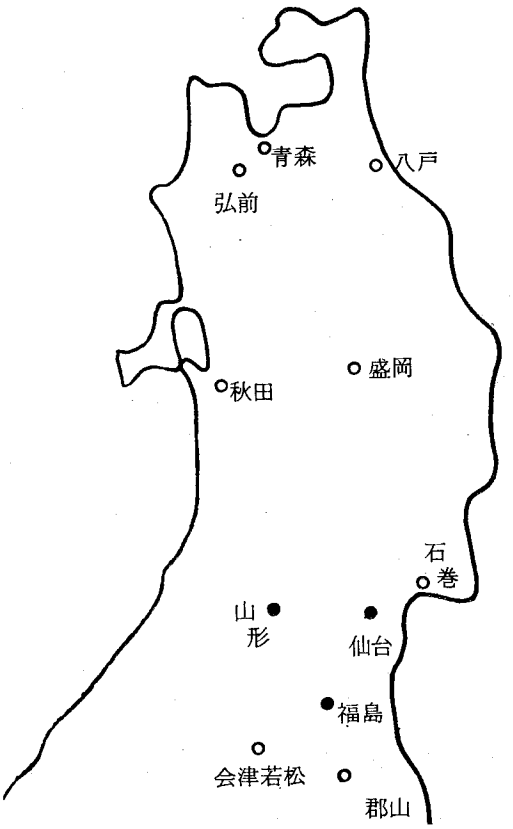
日本東伝道部

全国のモルモンの皆様！

皆様の伝道部には，現在支部，伝道所がいくつあるのでしょうか。あまりにも急速な進展ぶりで，他の伝道部所属会員には想像もつかない数にのぼるのではないかと思います。今月号では，日本東伝道部の支部，伝道所を紹介させていただきます。伝道所における改宗者数も増加の一途をたどっています。いずれ折を見て，皆様方の近況もお知らせ下さい。互いに頑張りましょう。

（●印 支部所在地　　○印 伝道所所在地）





支部所在地

	郵便番号	電話番号
札幌支部	(060) 札幌市南20条西16丁目	011－561－7175
小樽支部	(047) 小樽市富岡町1の5の23	0134－2－8224
室蘭支部	(051) 室蘭市幸町12丁目9番地	0143－2－7054
旭川支部	(070) 旭川市6条西1丁目	0166－22－1545
仙台支部	(980) 仙台市上杉4の1の5	0222－25－0897
福島支部	(960) 福島市渡利字小久保8の7	0245－23－5313
山形支部	(990) 山形市七日町4の12の23	2236－23－3380

伝道所所在地

釧路伝道所	(085) 釧路市宮本町9番地	0154－41－8877 0154－41－1823
帯広伝道所	(080) 帯広市西1条南23丁目1番地	01552－3－7656
函館伝道所	(040) 函館市八幡町12の1	0138－52－1150
岩見沢伝道所	(068) 岩見沢市5条西12丁目2の8	01262－3－0034
苫小牧伝道所	(053) 苫小牧市中野86	01442－3－9747
盛岡伝道所	(020) 盛岡市名須川町10の9	0196－23－3657
郡山伝道所	(963) 郡山市虎丸町22の8	0245－3－6406
秋田伝道所	(010) 秋田市檜山館の越55の1	0188－34－4089
八戸伝道所	(031) 八戸市大字上徒士町5番地	01782－22－9893
弘前伝道所	(036) 弘前市大字若党町24の1	01722－4－9667
青森伝道所	(030) 青森市沖館千刈106の5	01772－77－1867
石巻伝道所	(986) 石巻市門脇町1の8の24	02252－3－0703
会津若松伝道所	(965) 会津若松市馬場下五之町27番地大塚呼出2	－6659
札幌東伝道所	(062) 札幌市月寒西3条7丁目407－6－5	011－861－7334

〈日本中央伝道部の頁〉

＜バプテスマの記録更新！3月中に132名＞

日本中央伝道部ではまたもやバプテスマの数の記録更新が樹立された。

3月中の1か月間に132名のバプテスマがあり，1970年11月の124名の最高記録を大幅に更新した。1か月に28人のバプテスマを記録した阿倍野支部では3月28日の1日中に16名の驚くべき数のバプテスマを記録しまるで初期のモルモン教会時代を思わせる壮観さであった。宣教師の大いなる働きと支部の全員の協力を心より感謝致します。主の大いなる導きと恵みが中央伝道部にございますことを強く感ぜざるを得ない大いなる1971年3月でした。

＜中央伝道部誕生大会盛大に開かる！960名の出席者を記録＞

中央伝道部では4月3日(土)～4月4日(日)にかけて伝道部誕生大会を下記の如く盛大に催した。

4月3日(土)

大運動会…… 10:30—15:30（於カナデイアンアカデミー）

食べよう会…… 16:00—18:00（〃）

歌と踊りとフェローシップの夕べ…… 18:00—20:00（〃）

4月4日(日)

神権会と扶助協会… 9:00—10:30（於豊中市民会館）

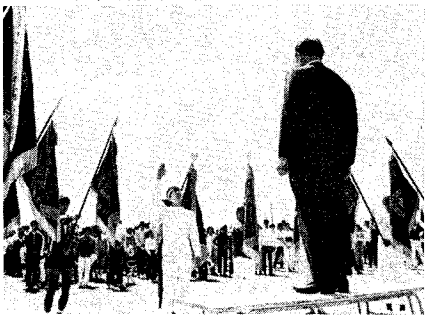
一般大会一部…… 11:00—13:30（〃）

一般大会二部…… 14:15—16:15（〃）

指導者会…… 17:00—19:00（於岡町支部）

なお4月3日(土)には約650人の参加者が走り食べ踊り歌いフエローシップを楽しみました。4月4日(日)の大会には960名のモルモン大家族が出席し岡崎伝道部長夫妻の残り少なくなった在任期間を惜しみ部長の偉大な業績をたたえ大成功の中に大会を閉じた。

＜全姉妹による地方部対抗綱引き＞



＜高知支部の兄弟による選手宣誓＞

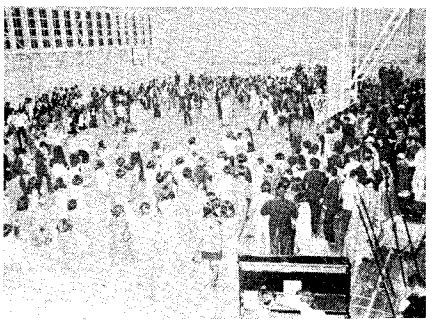
＜支部対抗リレー＞

＜阿倍野支部の優勝旗返還＞

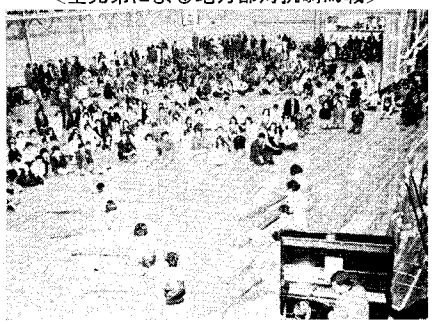
＜伝道部と各地方部対抗リレー＞

＜全兄弟による地方部対抗騎馬戦＞

＜宣教師による大コーラス＞

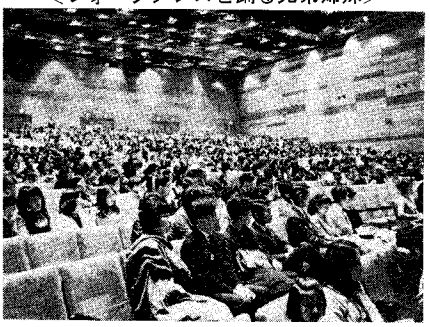


＜フォークダンスを踊る兄弟姉妹＞



＜姉妹による琴演奏＞

＜神権会での伝道部長の話＞

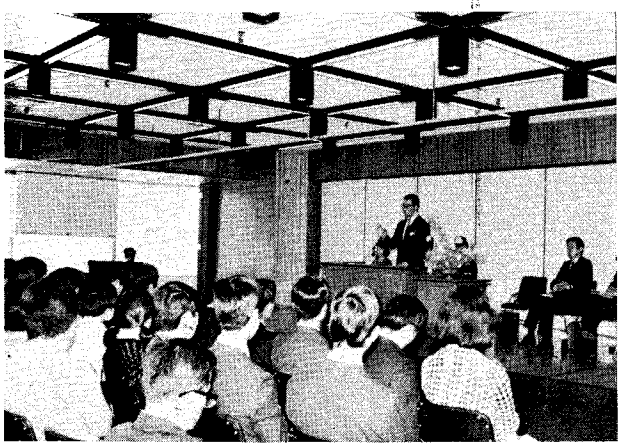


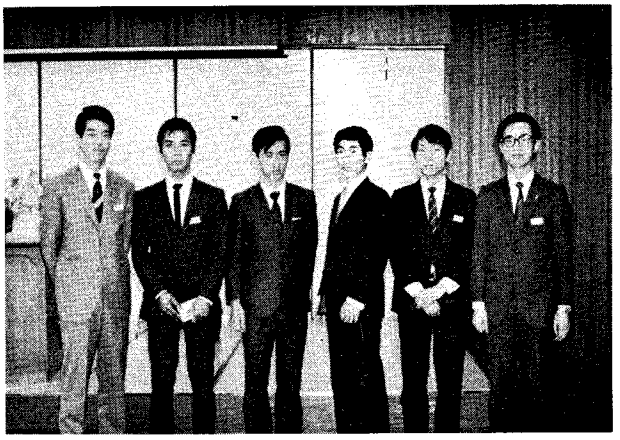
＜一般大会一部＞

＜一般大会二部＞

日本西部伝道部

〈九州地方部大会〉





3月27，28日の両日，福岡において九州地方部大会が開かれました。渡辺伝道部長をはじめ，指導者の力強く霊感あふれる話に大きな力を得，新たな献身を胸に抱きつつ，参加者は帰途につきました。この大会は初めて三百人を越える参加者を得，着実な歩みが感じられました。本大会では，写真左より，安永，本田，藤本，曽田，藤，大坪の各兄弟がメルケゼデク神権を受けました。

〈伝道部MIA〉

伝道部最初のユースカンファレンスをひかえ，新しく三人の兄弟姉妹が加わり，次のような顔ぶれとなりました。

YM会　長	西　俣　康
YM第一副会長	藤　和　哲
YW会　長	西　俣　秀　子
YW第一副会長	山　下　澄　子
YW書　記	重　岡　あ　け　み

ユースカンファレンスは8月の5，6，7，8の4日間，福岡市内の各会場で開かれます。

「愛と一致」をテーマとし日程は右の通りです。

ＭＩＡの役員たち

5日（木）　チェックイン，開会式，水泳大会，盆踊り

6日（金）　演説祭，音楽祭，演劇祭

7日（土）　スポーツ大会，ダンスフェスティバル

8日（日）　伝道部大会

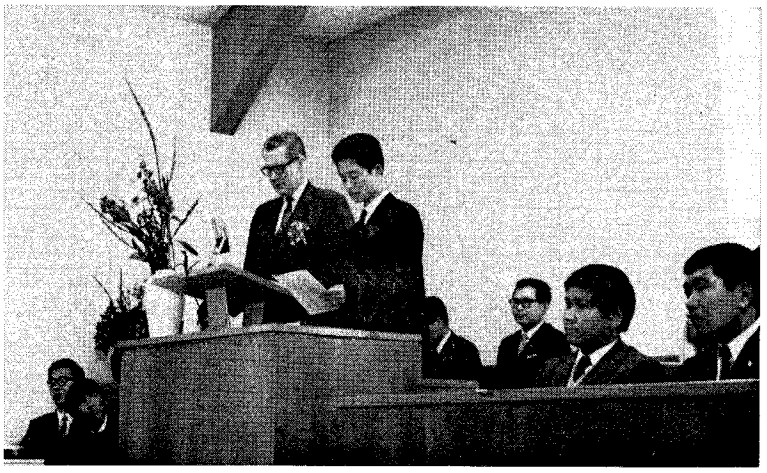
参加資格は12歳以上であれば100歳の方でもＯＫです。皆さんがふるって参加し，信仰と証を強めていただくことを望んでいます。

〈モルモン経〉

これは長崎で見かけた書店の書棚です。宣教師が店主に依頼して，モルモン経の販売を始め，数日のうちに十冊が売れ追加注文を受けました。隣りにならぶ，聖書とともにベストセラーの仲間入りをする日が待たれる。

日本伝道部

「汝らの事ふべき者を今日選べ，
我と我家とは共にエホバに事へん。」



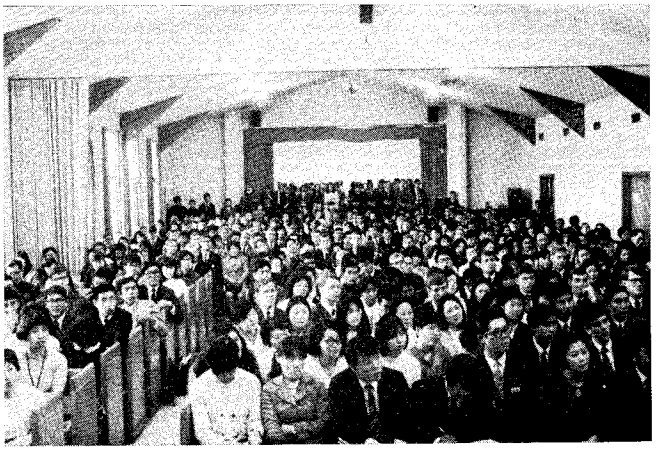
日本伝道部大会

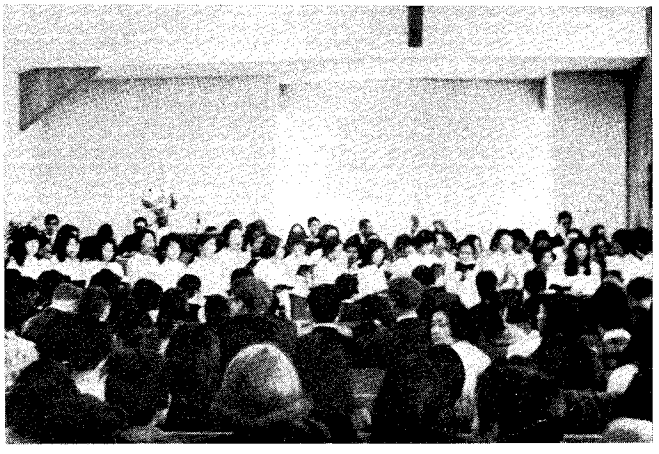
3月5，6，7日，東京第三ワードにおいて，日本伝道部宣教師大会はこのテーマのもとに開かれ，175名の宣教師がそこに集いました。終始すばらしい雰囲気のもとに会は進行しましたが，特に土曜日は東京ステーキ，副ステーキ部長である菊地良彦兄弟の霊的なすばらしいお話と美しい「証詞」の歌を聞くことができました。ビルス姉妹の大きな励ましと知恵ある言葉に私達は心から感謝しています。又，福音に大いなる知識をもち，たえず宣教師を力強く導いて下さるビルス伝道部長は，私達に新しいプログラムを紹介して下さいました。それは個別訪問の時にモルモン経を貸すプログラムが以前から行なわれていますが，それに加えて家庭の夕べのプログラムを紹介し，今，宣教師と共に学んでいる家族の人達にも具体的に，且，積極的に家庭の夕べを紹介することです。

日曜日の一般大会には，175名の宣教師と多くの求道者を含めて，649名の人々が出席しました。扶助協会のシンギング・マザーズを，はじめ幾つかの支部の美しいコーラス，霊的な数々の話，帰還する宣教師の代表達の述べる力強い，さよならの証詞と愛。どれ一つをとってみてもすばらしいものでした。

聖徒達はこの夏の神殿訪問計画を聞き，この大きな機会に備えて準備をしようと言う意欲と喜びで満ちていました。また，新らしい支部や伝道地から6名の兄弟達が大神権を受けられ，これからの若い彼らの働きに期待されています。

ステーキ部が組織され，伝道部が二つに分けられてから，一年たった今，この大きな西支部の建物が再びあふれるばかりいっぱいになった光景を目のあたりにし，私達は主の御手がまさにここにある事を改めて，ひしひしと感じ，心より神様に感謝しました。そして，主の業に励む決意をあらたにしました。





昭和四十二年十二月十八日第三種郵便物認可
一九七一年五月二十日発行（毎月一回二十日発行）第十五巻第五号

私にきのうを与えて下さい

リチャード・L・エバンズ

3世紀ほど昔、トマス・ブラウンは「私の中に私を怒る別の人間がいる」[1]と語った。これこそ、己れの内に平安を見出せないでいる人の不安を巧みに言いあてた言葉である。心の平安は人が望んで止まないもの、時には必死に乞い求めるものである。では己れの内にあって己れを怒るものとは、何であろうか。当然その理由はさまざまであろう。しかし多くの場合、人生の光に反することを行ない、知っている生き方に逆らい、他人と不和になり、自分の内部に矛盾をいだき、おだやかな良心を見失い、なすべきことやなせたはずのことを行なわず、また故意に誤ちを犯すことが理由となる。エルバート・ハバードの次の言葉が心に浮かぶ。「人は罪によって罰せられる。罪のために罰せられるのではない」[2]。これが律法と秩序の世界である。自然は律法に従う。天体と星とは時と季節に応じて荘厳に変り行く。この物質世界においてある成果を望むならば、科学者として、技師、製作者、建築者として、我々は律法に従わねばならない。物質的、霊的、精神的にこれほど複雑で感じやすい人間が、律法に反して歩んで最良の人生が得られるなどと、なぜ考えられるであろうか。答えは簡単、それは不可能である。体を誤用する時、鋭敏な精神や霊の機構をだめにする行ないをなす時、我々は代価を払うのである。たとえすぐにその代価が判然としなくても悲劇は、払う代価が我々のになえる域を越えていることである。我々はこう嘆願した者の叫びを心にとめる。「ああ、神よ。あなたの世界をもとへ戻し、私にきのうを与えて下さい！」[3]。だが、我々はきのうに返ることはできない。人生はただ一本の道を進むのみである。我々は悔い改めることができ、進歩することができ、改めるために最善を尽くすことができ、正しく健全な目的をいだいて平安を見出すことができる。しかし、悪い道を変えるまでは、真心から、まったく正直な心でそうするまでは、我々の内に己れを怒る何物かが存在する。それは真に幸福な生き方ではないのである。「ああ、神よ、あなたの世界をもとへ戻し、私にきのうを与えて下さい。」それは人生の道ではない。我々は、己れのうちに怒る人を持たずして、心の平安を得る生き方をできるのである。

1. ブラウン，サー・トマス…（1605－1682）「レリジオ・メディチ」，II，1642，英国の著作家，医師
2. ハバード，エルバート…（1856－1915）「実利主義者」，第9巻，P.7 米国の著作家，評論家
3. ジョーンズ，ヘンリー・アーサー…（1851－1929）「銀の王」，英国の劇作家

聖徒の道
1971年5月20日発行
発行人兼編集人　ウォルターR.ビルス
発行所　東京都港区南麻布5－8－10
末日聖徒イエス・キリスト教会　電話（442）7459
印刷所　太陽印刷工業株式会社
定　価　100円
予　約　一年間 1,000円（外国4ドル50セント）